

別添 6

メディア掲載記事

別添 6

メディア掲載記事

東京学芸大学附属小金井中学校 GREEN TECH Engineer LAB でのワークショップ掲載

11月6日付 教育新聞 [購読会員限定記事] https://www.kyobun.co.jp/news/20201106_02/

未来の森林の姿を提案 中学生がワークショップ | 教育新聞

未来の森林の姿を提案 中学生がワークショップ

2020年11月6日 [購読会員限定]

森林空間を活用した教育の可能性を模索するため、林野庁はこのほど、中学生が2050年の森林の姿を考えるワークショップを都内で実施した。生徒らは、森林を都会に暮らす人にも身近に感じてもらうためのアイデアなどを提案した。

ワークショップは、同庁が今年9月に立ち上げた「森林空間を活用した教育イノベーション検討委員会」の活動の一環。生徒らは普段からも、東京学芸大学附属小金井中学校の課外活動「GREEN TECH ENGINEER LAB」のメンバーとして、休日にNPO法人「緑のダム北相模」が管理する森林の整備活動に参加したり、間伐材を活用して学校の備品や木のおもちゃを作ったりなどしているという。今回は未来を見据えた森林との新しい関わり方について、グループで話し合い、発表を行った。



2050年の森林と人との関係を考える中学生ら

あるグループでは、コロナ禍でテレワークの需要が高まったのを受け、Wi-Fiや電気が通じていて仕事場として使えるツリーハウスを提案。ツリーハウスにできる大きな木を育てるためにも、森林環境の保全が重要だと発表した。

また別のグループでは、車椅子で移動する人や都会で暮らす人が気軽に森林を感じられるように、マンションやビルにバリアフリーの森林空間をつくることを提案した。

参加した生徒らは「地球温暖化について自分も何か行動したいと思って、森林環境の保全に参加しているが、森を守っていくには、自分たちができることをしっかりやっていかなければいけないと改めて思った」「これまでも森での作業は楽しかったが、ワークショップを通して、何を目標にして作業すればいいのかを考えるきっかけになった」など、普段の森林保全活動を見つめ直していた。

緑のダム北相模副理事として、生徒の森林保全活動を指導している同校の宮村連理（れんり）教諭は「子供たちは木を切る経験からだけでも、いろいろなことを学ぶ。木が倒れる音、感触、スリルなど、さまざまなものを感じ取っている。自分たちが森林保全の役に立っているということが、やりがいやチームワークを生んでいる」と、森林をフィールドにした教育の意義を語った。

ワークショップは今後、山梨県、長野県、静岡県、福岡県でも、中高生を対象に実施する予定という。

森林の未来像 掛西高生提案

山頂に展望台 ドローンで木材運搬

掛川西高アウトドア部の12人が5日、掛川市山中で森林の未来を考えるワークショップに臨んだ。林野庁が全国5カ所で開く「森林×SDGsプロジェクト」の一環で、市森林組合と地元企業コンセプトの案内で間伐、造林の現場を視察した。

若者たちに森林の魅力 員から仕事の魅力や木材に触れ、将来林業の担い 流通の仕組みを学んだ。手や消費者、レジャー客 まき割り、電動マウンテンバイクの試乗なども楽しんだ。森林組合 しんだ。

の間伐現場では伐採、裁 最後に班に分かれて森林の未来像を話し合っている。高性能林業機械を「山頂に展望台を造って使った作業を見学し、職 訪れる人を増やしたい」

間伐、造林現場も見学

「木材をドローンで運ぶ技術があれば作業が楽になる」といったアイデアを出し合った。

白旗稔介部長（2年）は「森は景色がきれいである香りが良く、遊びの場を提供してくれる。将来も変わらない姿であり続けるように、自分も森の良さを広めたい」と話した。（掛川支局・宮坂武司）



森林組合職員の案内で間伐現場を見学する生徒たち＝掛川市黒俣

根羽村の義務教育学校根羽学園で13日、「根羽村の森林体験&2050年の未来予想図作成ワークショップ」が開催され、参加した5、8年生の児童生徒14人が、30年後の理想の森を発表する。

根羽村

森の30年後を考える

散策や狩猟見学の小中学生がワークショップ



30年後の理想の森を発表する児童生徒

が村内の森林を見て触れ、30年後の村と森林について考えた。林野庁がかいほつマネジメント・コンサルティング（東京都）に委託して行う「令和2年度つたえ、感じる、つながる、森林×SDGsプロジェクト」事業の一環。森林体験教育や森林研修を通してさまざまな形で森林利用促進を検討する。ワークショップは全国4つの中学・高校が参加し、同学園が5校目となる。未来の森林の姿、自分たちの関わり方について考え方をまとめ「未来予想図」を作成。動画を撮影し、お互いのアイデアを共有する。午前中は「散策」と「狩猟」の2チームに分かれて村内で森林体験。間近で自然に触れ、森の魅力や課題を探った。午後はワークショップを実施。森林体験を振り返り、30年後の森や周りの環境の理想、そのためにできることをチームごとに話し合っ発表。散策チームは森で見つけた木の実やつ

たを使って直径約1メートルのリースを作成。発表では「こみが多い」「道が整備されていない」などの課題を上げ、「こみ拾いや植樹をして人間と動物がともに生きていく森づくりを目指す」と意気込んだ。7年生の片桐愛実さん（12）は「意外とこみが多くて驚いた。皆が森をきれいにして、過ごしやすい場所になってほしい」と話し、8年生の松下莉久さん（11）は「狩猟を間近で見て、改めて命

の大切さが分かった。こみ拾いなどで撮影した動画は動きることに取り組んだ。画投稿サイト「ユーチューブ」の農林水産省公式チャンネルで公開予定。

祭りテーマに思い交わす

天龍村
オンラインで地元住民と都市在住者

2019年に県が主催した関係人口オンラインイベントを「つなぐラボ」で、天龍村と関わった都市部在住者でつくる「天龍つなぐラボ」は、このほど、同村民

別添 7

篠栗町ワークショップ ワークシート

別添 7

篠栗町での森林体験・ワークショップに際して利用したワークシート

森を歩きながら考えてみよう

歩きながら感じたことをメモしよう。

Q1：森を歩く前と後で、森の印象は変わりましたか？
効果音（ざわざわ、しーん、どっしり）など、一言で表してみよう。

(森に入る前)

(森に入った後)

⇒

Q2：あなたが感じる「森のめぐみ」を探してみよう。

Q3：篠栗の森を作った人は、どんな思いで木を植えただろう？

Q4：30年後、50年後、100年後の森を想像しながら歩こう。
どんな変化があるかな？

Q5：森は、SDGsの達成にどうつながるだろう？

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を達成しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくばない、つかう賢く、捨てる賢く
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリーシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Q6：今日参加していない友達や、家族に伝えたい森の魅力は？

別添 8

根羽村ワークショップ ワークシート

別添 8

根羽村でのワークショップに際して利用したワークシート

Q1：あなたが感じた「森のめぐみ」は？ “なんかないな”と感じる森、 “ちよっと気になる”森 見たこと、聞いたこと、匂い、触ったもの、 食べたもの、振り返ってみよう。	森林体験を振り返って… 絵でも、言葉でも、自由に表現しよう
Q2. どんどころがいいと思った？ なぜ気になるのかな？	
Q3. 森や周りの環境は、30年後どうなっているだろう？	Q4：30年後どんな森になるとよいだろう？
	Q5. 30年後の自分を想像 30年後、自分は____歳です。 家族は、____です。 ____に住んでいます。 仕事は、____。 森との関わりは____。

別添 9 アンケート結果

【学生】

アンケート結果【学生】目次

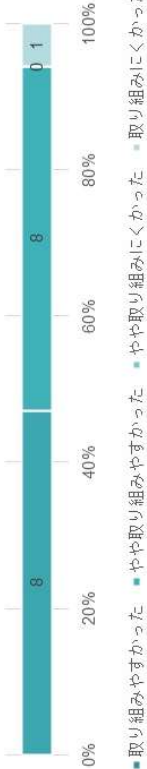
1. 東京都 東京学芸大学附属小金井中学校 GREEN TECH Engineer LAB でのワークショップ
.....別添 9-2
2. 福岡県 篠栗町での森林体験・ワークショップ別添 9-7
3. 山梨県 北杜市でのワークショップ別添 9-12
4. 静岡県 掛川市での森林体験・ワークショップ別添 9-19
5. 長野県 根羽村での森林体験・ワークショップ別添 9-23

アンケート実施概要

開催地	参加生徒数	アンケート回収数	アンケート方法
東京都内	20	18	オンラインフォーム
福岡県 篠栗町	19	17	用紙記入
山梨県 北杜市	40	38	用紙記入
静岡県 掛川市	12	12	オンラインフォーム
長野県 根羽村	14	14	用紙記入

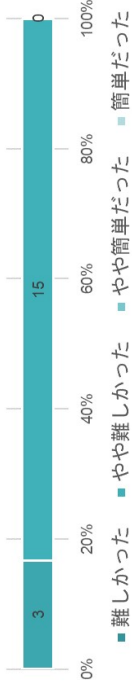
- ※ 無回答は設問ごとに集計から除いたため、同じ開催地でも設問によってデータ個数 (n) は異なることがある。
- ※ もともとの回答から、語尾や言い回しを修正したり、意味が通りやすくなるよう補った部分がある。

Q1-1. 事前課題 (好きな森、気になる森／自分の経験の振り返り)の取り組みやすさ／理由・感想 (n=17)

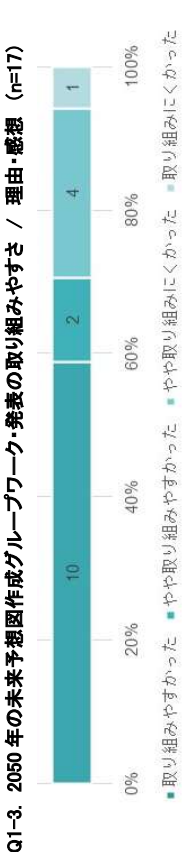


【取り組みやすかった理由・感想】
僕たちは週末に山に行く機会があるのでやりやすかった。
書く内容が段階を踏んで、しっかりと提示されていたから。
普段思っていることを書く作業だったから。
身近にあるものを課題として出していたから。
自分の好きな森の背景を友達に共有することができたから。
自分の中にある森に対しての考えや感想を率直に書くことができたから。
質問などを丁寧に書いてくれたから。
それについてどう思うか考えた、みたいに難しく書くなくてもよかったのでやりやすかった。
【やや取り組みやすかった理由・感想】
いつも気にしていた部分ではなかったから。
森の良さは、いくつもあるので一つに絞るのはとても難しかったです。そして後から友達の前課題を見てみるといい案が沢山あったので、そのような案でも考えてみたかったです。
質問はわかりやすかったが、いい写真があまりなかったから。
内容が面白かった。
身近にある木だから。
他の人の意見が見られてよかった
森なども自分の好きな所の写真を撮れて、説明も分かりやすかったので良かったです。
いつも気にしていた部分ではなかったから。
【取り組みにくかった理由・感想】
もう少し、グループで考える時間が多いとよと思った。

Q1-2. 事前クイズの難易度／理由・感想 (n=18)



東京都内【学生】	
【難しかった理由・感想】	
意味の分からない単語が何回か出てきたから。	
聞いたことがある言葉もあったけど、分からないものが多かったです。	
あまり森について考えられていなかったため。	
【やや難しかった理由・感想】	
学校で学習しているだけでは、知り得なかった言葉が多くあったから。	
もともと知っている知識を応用したら解ける問題もあったから。	
森で勉強できることもできないこともあったから。	
よく考えたら解くことができる問題もあったが、細かい数値を求められる問題は、なんとなくの割合は分かっているけど細かいのは分からなかったため難しかった。	
事前クイズでは日常生活ではあまり聞かないようなことも問題となっていたので少し難しく感じた。	
知らないことが多く、難しかった。	
分かっているのがほとんどだったから。	
もともと知っていたこともあったけれど、意外とわからない問題もあったから。	
ほとんど授業でやっていた。	
まだ知らない知識が多かったから。	
初めて知った知識や興味深い事柄が沢山出てきたから。	
今まで考えてもいないことを質問されて、森について改めて考えるようになりました。また、解説がとてもわかりやすくてためになりました。	
最後のページの問題が特に難しかった。	
少し難しかったところもあったが、楽しく取り組みた。	
意外に、森で活動しているのも分かっていないことがたくさんあった。もっと森について知りたい。	

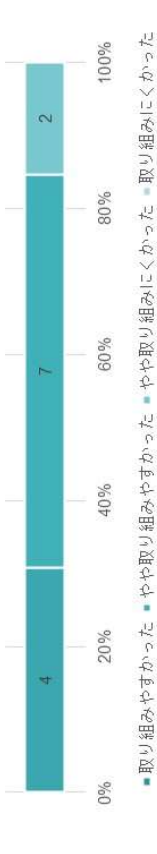


【取り組みやすかった理由・感想】
個人ではなくグループで話し合ったから。
1人だけで考えるのではなく4、5人のグループで考えたので、意見を共有することができ、より良い考えを出すことができた。
内容が難しかったが、みんなで案を出し合うことができた。
1人で発表するという形ではなかったから。
全く知らない人ではなく同じラボの人だったのでやりやすかった。
なんでもありがよかった。
グループなので友達と考えを共有できて、自分の考えをさらに深めることができたから。
何を使ってもいいということで、自分の考えていることが表現しやすかった。

東京都内【学生】
グループ発表では自分にはない意見などが分かったり新たな考えが生み出したので良かった。
現実みを帯びていない意見でもよかったので、自由に考えることができた。
【やや取り組みやすかった理由・感想】
自由に考えたり、グループのメンバーで自分の考えを共有することはできたから。
いきなりのことだったので、少しアイデアの例などを聞いてみたかった。用具などはすべて揃っていたのでとてもありがたかった。

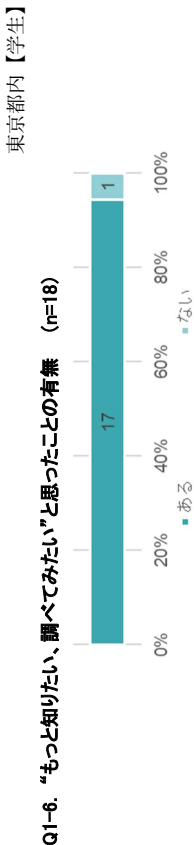
【やや取り組みにくかった理由・感想】
森や木にどのくらい関連していれば良いかが分からなかったから。
みんなが取り組み前に例などを提示すればもっとやりやすくなると思う。
途中で帰宅してしまったので、あまり内容が分からなかったから。
最後2人だけになってしまって、人数が少なくなってしまうので、発表するのが大変だった。
森で活動はしていたが、将来の世代に受け継ぐことについては考えたことがなかった。
【取り組みにくかった理由・感想】
もう少し、グループで考える時間が多いと良いと思ったから。

Q1-4. フォレストハイム・パス メッセージ撮影の取り組みやすさ / 理由・感想 (n=13)



【取り組みやすかった理由・感想】
こういうことを言わなきゃダメ、などの縛りがなく自由にメッセージを考えることができたから。(みんなそれぞれ違って面白かった。)
アイデアが面白かったから。
みえない人に話しかけるのがよい。
最初によく考えられたので、何を伝えたいかよく考えることが出来たから。
【やや取り組みやすかった理由・感想】
分かりやすいように伝えるのが難しかった。
撮影でどのようなことを言うかなど、きちんと決めたいので、もう少し考える時間が欲しい。せっかく前の考える時間で、いい案が出たのだから、それを相手に確実に伝えられるよう、どのような順序で話すかをきちんと決めたい。正直、4、5分だと短すぎた。
班のメンバーでの誤解や考え方のすれ違いがあったので、もう少し時間が欲しかったです。
自分たちとは違う環境の人たちと意見を交換できる機会は、なかなかできないことだと思った。
みんなと言うところを考えたりにして、取り組みやすく楽しかったです。
自然を大切にすることは大切だと思った。
もう少しだけ時間が欲しかった。
【やや取り組みにくかった理由・感想】
知らない人達に送るメッセージだったから。(緊張した)
僕は参加することはできなかったから。

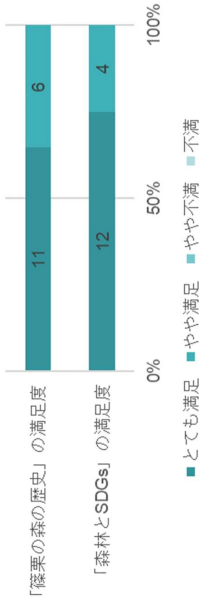
新たな気付きや学びの内容
自分が大人になったときのことを想像し、考えることができれば、「子どもだからできない」などということはないと思った。
森に触れ合えること自体がとてもすごいことなのだと思う。
人によって森への思い(イメージ)は違っても、多くの人が森の自然から安らぎを得ているということが分かった。
森を守っていくには、一人だけではなく、たくさんの人で協力する必要があること。これから森を守っていくためには新しいアイデアが必要であること。
木の価値が下がっており、経済的に成り立たなくなっていることを学んだ。
森での活動をしている私達だが、今回考えたようなことはあまり考えてこなかった。森林と改めて向き合えたのでいい経験となったのだと思う。
森のことについてまだまだ知らないことが多いと改めて気付いた。
また、みんなの希望、望みである森になっている場所は少ないので、これから増やしていけたら子どもに興味を持ってもらえる森になるのではないかと学びの中で考えた。
森について見つめなおせた。
僕たちは今のことばかりにとらわれていたので、ずっと先のことを考え、大人になったらこの世界で木はどのように活用されるのか学ぶことができました。ツリーハウスやピルの下など。
日本にはまだまだ伸びしろがある！
意外と身近にある自然は面白い。
自分の思う未来予想図以外にも、グループの中で話していて、他の人の考える未来予想図を知ることができて興味深かった。
森は身近だけれど、自分たちの生活を予想以上に守ってくれていて、とても驚いた。
森と関わると人の心がスツキリして、森と関わっていくことが大切だと思った。
森の未来を予想することができ、また多くの新しい発想を得ることができた。
今まであまり考えなかった考えや視点から見ることができた。ほかの人の考えを知ることができて良かった。
一部しか見ていなかったけど今の日本の現状を見て自然を大切にすることが私たちに未来に関わり、もっと森について知ってもらい、関わる機会を増やしていくことが大切だと思った。
意外に森について知っていたいなかった。



知りたいこと、調べてみたいことの内容
世界で行われている、植林活動をはじめとした森林保護活動（今の大人たちが考えた方法）
今、国が行っている森林事業。
一つの森だけでなく、広い範囲で、今という問題があるのかということ。
世界ではどのような策で森を守っているのか。
他の国は木1本あたりどのくらいの価値があるのかを調べ、日本と比べてみたい。
今回、事前学習で多くの新しいことについて学べた。はつきり言って今の私にはあまり知識がない。なのでこれから先少しずつでも森林について考えられたいなと思った。
ツリーハウスをいろいろな場所に作ることでできるのか、知りたいと思った。
子ども向けや、大人のために取り入れたいことなど、考えたり、調べたりしたいと思った。
SDGsについて。
今回考えたことはSDGsにつながっていて、小学生のときにSDGsのことを探究で学習していたが、こういう活動がSDGsに貢献していることは知らなかったもので、他にもどのようなことでSDGsに貢献しているのか考えてみたい。
今のITと組み合わせるところ。
あまりない。
フォレストバトン・パス メッセージで、動画を送った相手の人たちの地域の環境を、もう少し知りたいな〜と思った。
森とSDGsとの関係や人と生物と森の親密な関係についてもさらに調べたいと思った。
多くの人と森が関わっていくためには、どのようにすればいいのか、もっと考えていきたいと思った。
森の生物が好きだったのでこの団体に入ったのだが、昆虫などだけでなく木を効率よく管理する方法も考える必要があると思った。
もっとより良い考えを生み出せたらいいなと思った。
森がもっと多くの人と関わって行くにはどうすれば良いかということを考えさせられた。
森の特色や問題をもっと知りたいと思った。

2. 福岡県 篠栗町での森林体験・ワークショップ

Q2-1. 事前講義「篠栗の森と歴史」の満足度/理由・感想 (n=17)



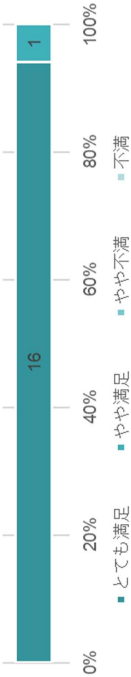
【事前講義「篠栗の森と歴史」の「とても満足」の理由・感想】
篠栗町にどんな歴史があるのかを知れたから。
前日に講義をして当日に活かされたから。
篠栗の歴史が知れたから。
篠栗町の知らなかったことが知れたから。
篠栗町の歴史や森について知った。
篠栗町の歴史について知れて、今との比較ができたから。歴史は好きだから。
篠栗町の森の歴史が分かったから。
明日行くところについて分かったから。
「大和の大杉」がとても印象的で、森林に興味を持った。
初めて知ることが多かったから。
自分がまったく知らない篠栗町を知れたから。
【事前講義「篠栗の森と歴史」の「やや満足」の理由・感想】
あらかじめ歴史について知り、興味を持てるから。
声が聞こえにくかったから。
篠栗の歴史を知れたから。
篠栗町の歴史について知ることができたが、ずっと聞いてばかりで少し眠くなった。
篠栗にも様々な歴史があるということ。

Q2-2. 事前講義「森林とSDGs」の満足度/理由・感想 (n=16)

【事前講義「森林とSDGs」の「とても満足」の理由・感想】
SDGsについて知ることができたから。
SDGsのことを知ることができたから。
SDGsと森林が関連づけられていて面白かった。
SDGsのことを詳しく知れたから。
SDGsと森林が関わっており、2つの特徴を知れた。
森林セラピー前に知り、考えを持てたから。
世界の現状などが知れたから。
森林を守るためにSDGsが様々な取組をしていて、すごいと思った。
SDGsを守るためには森林も大事ということが知れたこと。

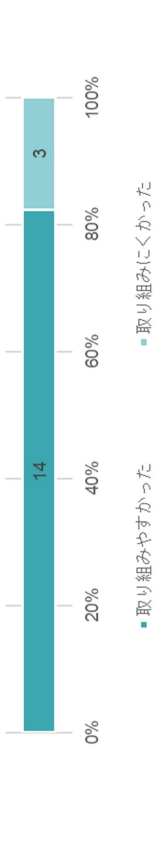
【事前講義「森林とSDGs」の「とても満足」の理由・感想】
SDGsについて詳しく知れたから。
森林の大切さがわかったから。
SDGsでいうことができるのか、というイメージを持てたから。
【事前講義「森林とSDGs」の「やや満足」の理由・感想】
SDGsについてよく知らなかったが、知ることができた。
森林とSDGsの関連性などが分かったが、やはり少し眠くなった。
SDGsがどれだけ頑張っているか、分かったから。
発表が苦手だったけど、少し克服できた気がするから。

Q2-3. 森林セラピーの満足度/理由・感想 (n=17)



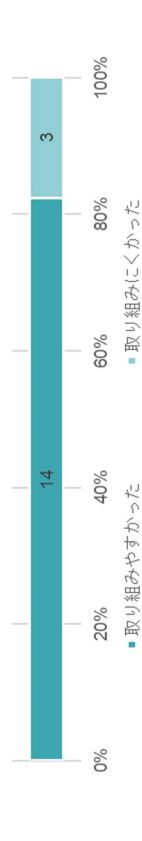
【森林セラピーの「とても満足」の理由・感想】
森林の中を歩いているいろいろなものを見られたから。
森林の中を歩いて気分転換できたから。
みんなの考えを知れてよかった。
リラックスできたから。
みんなと意見を交わし、最後に未来の森林について発表できよい経験になった。
森林の良さに気付くことができ、楽しかった。
自然の良さを、身をもって感じることもできたから。
下のチップなど、とても楽しかった。
森に入ってから落ち着いたし、自然を感じることもできた。
皆で森林について知りながら、楽しく歩けたから。
皆と森林を回るのが、楽しかった。
楽しく活動ができた！
森林を歩いて楽しかった。
山を歩いたり、意見を交わすのが楽しかったから。
大和の大杉など森から色々なものを感じられたから。
実際に森を歩いているいろいろなものに触れられたから。
【森林セラピーの「やや満足」の理由・感想】
発表にもう少し練習が欲しかった。

Q2-4. 2050 年の未来予想図作成グループワーク・発表の取り組みやすさ / 理由・感想 (n=17)



【取り組みやすかった理由・感想】
2050 年に森林がどうなっているかを考えることができた。
大人の人がフォローしてくれただから。撮影も緊張をたけどしっかりできた。
自分の考えがあふれてきてよかった。
大人の人が助けてくれたから。
未来の森に対して予想するのをうまく発表できた。
発表していくにつれ、気軽に意見を出せたから。
みんなの意見をまとめたながら未来予想図を作成できたので、とても良かったです。
案を出したりするとき、グループの大人の人が優しく面白かったので、みんなたくさん案が出た。
先生方も協力してくれたし、グループで意見を出し合ったので、書きやすかった。
自分達が思ったことを上手にまとめられてのでよかった。
自分が考えていることを自由に発表できて楽しかった。
自分の意見が否定されなかったから。
付箋を使って多くの意見交流ができたから。
まとめるための道具がそろっていたし、自由に話せたから。
【取り組みにくかった理由・感想】
なにも発表の練習なしで 2050 年の未来予想図をまとめ発表するのが、難しかったから。
時間が少し少なくて、まとめるのが終わらないで発表をしたから。
ぶっつけ本番で、2 分間でまとめるのが難しかった。

Q2-5. フォレストバトン・パス メッセージ撮影の取り組みやすさ / 理由・感想 (n=17)



【取り組みやすかった理由・感想】
次にバトンを受け取る学校に向けてメッセージが撮れたから。
撮影のときも大人のたたちにフォローしてもらったから。撮影も緊張をした。
撮影のときも大人のたたちが助けてくれたから。
同じ思いを持つ人に伝えやすくてよかった。

【取り組みやすかった理由・感想】
次の森林セラピーが行われる地域へのフォレストバトン・パス メッセージ撮影や、興味を引けるように工夫できたので良かった。
緊張したけど、楽しかった。
先生方、ボランティアの方々も協力してくれた。でも撮影は少し緊張した。
グループで 1 回どうやって発表するか計画を立てる時間が十分にあったから。1 分だけの撮影だったから。
フォレストバトン・パス メッセージ撮影は楽しくできて、良かったから。
班で協力して動画撮影ができたので、よかったです!!
具体的にすることを説明してくれたから。
リハーサルが 1 回あってよかったと思った。
自分の伝えたかったことが伝えられたから。
伝え方がたくさんあったから。
【取り組みにくかった理由・感想】
知らない人に対する発表が難しかった。
動画に収めるため、時間配分を考えるのが難しかった。
1 分間で伝えたいことを全て言い切れなかったため。

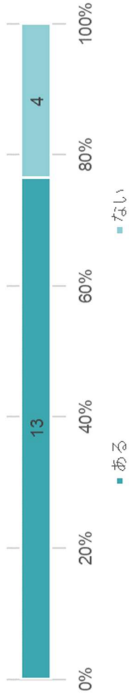
Q2-6. 事前講義、森林セラピー、2050 年の未来予想図ワークシヨップ、フォレストバトン・パス 全体を

通して得られた新たな気づきや学び

新たな気づきや学びの内容
森林の良さを改めて気付くことができた。
森林の温かさを改めて気付いたから。
森林がとても身近にあることが知れてよかった。
森林の効果を改めて知れたから。
森林がとても身近な存在であることに気付いた。
森林は人を落ち着かせ、いろいろな使い方ができる。
森林の中で寝ころんだ時に、心がとても落ち着いたので、これをみんなに体験してほしいと思うので、森林を守っていききたいと思いました。
篠栗の森はとてもよい所だなと思いました。
森や自然を通して、心が落ち着いたり、少し気分がよくなることがわかった。
大和の大杉は樹齢 600 年※、森林は人の身体によい。動物が苦手な植物がある。
大和の大杉というとても大きい木。森林の中に入ると、ウィルスを除去すること。除菌できる葉があること。
森林は自分が思っているより深く広いものだった。
森林がなくてはならない大切な場所だということ。
森林などの自然を通して「癒やし」など気持ちをリセットさせたりすることが大事だと感じた。
山がとても静かで、水や鳥の音がきれいだった。
大和の大杉のどっしりとした實緑を自分も持ちたいと思った。
道が広く、しっかりと整備されていた。

※ 大和の大杉の樹齢については、諸説存在する。

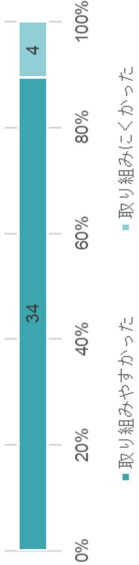
Q2-7. “もっと知りたい、調べてみたい”と思ったことの有無 (n=17)



知りたいこと、調べてみたいこと、の内容
森林がどのように成長していくのか。
森林をもっと歩いて、森林についてもっと知りたい。
森林の意外な使用法
森林で人々がリラックスできる場所を作ることができるのか、調べてみたいです。
篠栗町の自然だけでなく、他の町の自然についても調べたいと思います。自然が心にもたらす効果について、もっと知りたいと思った。
地球で一番初めにできた森林はどうやってできたのか。一番年上の木は、何歳か。
日本で植林できる面積はどのくらいあるか。
予想図を実際に作ってみたい！！
植物について関心を持った。
これから紫いでいく学校の動画を見ていろんな考えを知りたいと思った。
選ばれた5つの地域のメッセージをつなげて、1つのメッセージで見てみたい。山にある食べ物、山に住んでいる動物を見てみたい。
木で作ったものの活かし方と、森を守るために必要なこと。
他の地域の森林やその利用方法

3. 山梨県 北杜市でのワークショップ

Q3-1. 2050年の未来予想図作成グループワーク・発表の取り組みやすさ / 理由・感想 (n=38)



【取り組みやすかった理由・感想】
導入から入り、ワークショップの流れや時間の目安がわかり、それに沿って活動することができた。
最初はどう取り組みばいいのか分からず戸惑ったが、班の友達と森について話し始めると、そこから順調に進んだ！私たちの班は、「子どもの夢をかなえよう」というテーマだったので、小さい頃に帰ったような気持ちで取り組んだ。本当に有意義な時間を過ごせたと思う。楽しかった！！
他の学校の人の発表など、様々な例が示され、また、分かりやすい方法であったため。グループの皆と一緒に組み組めて、とても楽しかった。
ワーク①、ワーク②など、やる順番があり、取り組み時間も決められていたから。自分たちにできることは？森は何に使うことができる？などの普段は深く考えないことに触れるよい機会になった。
あまり考えたことのない内容で、改めて考えると、とても感慨深かった。30年後も、このすてきな森が守られていられるよう、今私たちにできることは何か、深く考えさせられた。また、ほかの班の発表では、私たちに思いつかなかった楽しいアイデアがたくさんあり、楽しかった。
班の人と意見を出し合い、まとめ、発表するのは短い時間の中で大変だったが、楽しかった。またほかの班の人の発表やユニークなものが多く、見ていて、聞いて、楽しかった。
自分たちの考えたことを短く、分かりやすい言葉で伝えることができたと思う。
テーマが決められていて、発表の例（？）も、メッセージビデオで見られたので比較的取り組みやすかったと思う。
複数人で取り組むところがすごい良かったと思います。他人の意見と組み合わせながらも自分の意見を推していいことが今回大切だと思っていたので、大変やりやすかった。
たくさんさんの意見が出てきて、すごく楽しかった。面白い発表だった。
普段身近にある森について、活用や、自分ができていることを考えることがとても楽しく、改めて知る機会にもなった。
未来の自然の想像をするのが楽しかった。面白い案も出て楽しめた。
グループの意見を聞いて、自分の意見をさらに深めることができた。しかし、少し時間（1つ1つを考える時間）が足りなかったと感じる。
最初はなかなか思いつかなかったが、話し合いをしていくうちに理想像がはつきりしてきた。ほかのグループの発表を聞いて、新たな視点から森について考えられたと思う。
楽しかったから。
身近にあるがあまり考えたことのない森林の活かし方について知れた。
原稿用紙にまとめる方法がやりやすかった。

北杜市【学生】
【取り組みやすかった理由・感想】
山梨県は山に囲まれているので、森林を守るための取組が考えられてよかった。自分たちの考えた取組を今後活かしていきたいからいいなと思った。
発表で「森林の活用法」「私たちにできること」の話し合いや図の作成が行いやすかったから。
発表を行う側も聞く側も楽しいと感じられた。
各々の理想と現実と価値観があり、北杜市民はとても森林が身近にあるが、中心部では身近に感じないためか、その差が生まれ、多面から森林について考えられた。木を細かくして、牛のエサやシューズ、プラスチックとして使われているのを初めて知り、びっくりした。
今回の授業中にべるがが出てきてとても驚いた。僕は白州の出身なので、嬉しかったし、さらに地元愛が生まれた。
取り組み前にビデオなど見せてもらい、なんとなくイメージをつかみ、そのイメージをみんなと話し合いながら具体的に表していった。様々な案が出てきて楽しかった。
人間や森林（自然）がより身近に触れ合え、動植物とも共存していけるような未来を、お互い自由にアイデアを出し合いながら、楽しく話し合えた。発表でも、自分たちの考え、気持ちがよく伝えられたと思う。
森林について知っていることを話し合ったり情報共有ができて進めやすかった。画用紙、メモ、クレヨン、模造紙をいっぱいに使って表現できた。
自分たちで「森林で〇〇をしたい」「〇〇な森林になってほしい」というとても大きな夢を考えることができ、次から次へといろいろな考えが出てきた。発表でどのように伝えるかを考えるに当たっても聞いて下さる人のことを考えて、楽しく発表できた。
楽しく取組めた。グループの人の意見交換は、新たな発見ができた！時間は足りなかったけど、最後までまよってよかった。
私は正直、森林なんて…と思っていて興味はなかった。けれど、今回のワークショップを通して、私たちの班では"夢"をテーマに考えたので、中学生になりあまり考えられなかった"夢"を持って考えることができ、とても楽しかった。
森林について考える充実した時間になってよかった。
短い時間でも、自分たちの考えをまとめることができた。
自分の考えたことや自分の自由な発想が全部、自分たちの発表に活かされたのでよかった。
それぞれが工夫して発表していた。自分の意見を述べた。
班の中で積極的に意見が出たので進めやすかった。面白い案があって楽しかった。
あまり関わりのなかった森林について学べてよかった。つながりや自分の理想で考えながら、楽しくできた。
みんなと2050年の未来予想図を考えるのが楽しかったから。発表は緊張した。

【取り組みにくかった理由・感想】
時間が足りなかったりで内容が少なくなってしまうたが、とても楽しかった。もっと時間が欲しい！甲陵中を選んでいただき嬉しかった！
とても楽しく、森林の活用の仕方がこんなにあるのかと驚いた。でも少し時間が少なかった。もう少し長い時間話し合いたい。
考える時間が少なかったため、少し取り組みにくいと感じた。みんなと協力して考えることはとても楽しかった。

北杜市【学生】
【取り組みにくかった理由・感想】
グループの意見を聞いて、自分の意見をさらに深めることができた。しかし、少し時間（1つ1つを考える時間）が足りなかったと感じる。ワーク自体はとても楽しかったが、時間が短く、少し取り組みにくかった。

Q3-2. フォレストパトロン・パス メッセージ撮影の取り組みやすさ (n=38)

取り組みやすかった	取り組みにくかった
34	4

【取り組みやすかった理由・感想】
正解がないので、各グループで自分なりに考え、PK法などを駆使してより分かりやすく伝える工夫ができた。
先生方が、立ち位置や残りの時間を丁寧に教えてくださったので、とても取り組みやすかった！
甲陵中1年として、静岡県高校にバトンを回せてうれしかった。またメッセージも、班のみんなと協力し、面白いものへと高めていくことができた。
他の学校の人たちに私たちの思いが伝わるとよいなと思った。また、メッセージや他のグループの発表を聞いて、場所は違っても自分たちの地域にある森林を守っていくことが大切だと感じた。
みんなで一つのことに対して一緒に考え発表する良い機会になった。身近な「森」のことだからこそ、色々な発表をすることができ、想像し、私たちの手で変えていくことが大切だと気がかされた。
それぞれの班がそれぞれ伝えたいことをしっかり伝えることができていたと思う。私たちの思いが、次の学校、そして未来へつながるとよい。
他校と考えを共有し合うことはなかなかないので、このような機会に立ち会えたことはよかった。
他校の人に考えがわかってもらえるとよい。
メッセージビデオの例があったので取り組みやすかった。少し緊張した。
バトンという形で森林について学習していくのはとても良いと思う。ただ、発表時間1分は少ないなと感じた。
森についての見方、森との付き合い方、伝えたいことを伝えられてよかった。
練習の時間があつたため、自分たちの思う発表に近づけることができた。1分というのは少し短かったと思う。1分30秒くらいにしてほしい。
グループでまとめたことを伝えたり、聞いたりすることができてよかった。また、考えたことが伝わったり、良いなと思ってくれたら嬉しい。
全体的に第1部の内容をまとめるのが難しかったが、楽しかった。
前もって別の学校のものを見せてくれたから。
他の人の発表を聞いたり、自分で発表することが面白かったし、工夫を施していて、参考になった。
自分たちらしい自由な発表をすることができ、次の学校にバトンをつなげてよかった。
最後にメッセージを、手などもつけて表現できて、良かった。
甲陵中学校以外にも、もっと全国的にこの活動が広まってほしいと思った。
次の学校の方に伝わりやすい、簡潔なメッセージを伝えられたから。もう少し考える時間が欲しかった。

北杜市【学生】	
【取り組みやすかった理由・感想】	
場所や気候、その土地の状態、もちろん県がちがっても、同じ森林という類として、情報を交換できたのは、とても良い機会だった。本当のテレビかのような「3、2、1、キュー！」には、ドキドキとワクワクが詰まっていた楽しかった。	
授業の最初のときに、ビデオメッセージを見て、「こんな風にできるかなあ」と不安に思っていたが、友達と協力することでよい発表をすることができたと思う。	
発表で言ったことをさらにまとめ、1分になんとか収めてメッセージ撮影に臨んだ。この動画を見て、ほかの人たちが、より森林に興味を持ってくれたらよいと思う。	
自分たちの考えや想いを伝えることで、「他の地域」とのつながりを感じることができ、とてもうれしかった。	
未来予想図グループワーク同様、森について考えることが楽しかった。他のグループ発表も見ていて参考になった。	
静岡県高校生が見るということで、最初は緊張していたが、私たちのグループらしく楽しく撮影できた。前の中学校の方から引き継いだフォレストバトンのことを考えると、今回このようなワークショップで全国の方とつながっていて、いい機会だった。	
他の班の発表を聞いたり、自分達の発表をしたりすることで、自分では考え付かなかった考えをたくさん知ることができて、よかった。	
時間を知らせてくれたのがよかった。ほとんどアドリブだったが、なんとか言えた。1分間にまとめるのは難しかったが、時間内にまとまってよかった。	
他校からのメッセージ、とても素晴らしく、とても良かった。私たちも他校へしっかりメッセージをつないでいけたかなと思う。指示がとてもわかりやすく、取り組みやすかった。	
他の人と意見共有ができて良かった。	
止まってしまったところもああったが、とても面白かった。	
自分たちの意見を他校に伝えられた。	
緊張したが、いつもどおりできた。	
楽しみながら発表することができた。	
他の学校に伝えることで、この森林のよさや森林の活用を広げることができた。	
【取り組みにくかった理由・感想】	
グループの人数が多すぎるほどやりにくかった気がする。人数が多いとホワイトボードが隠れ、模造紙が使いにくかった。	
自分たちが考えたことを、全く知らない人に向けて1分で発表することがとても難しかった。	
考える時間が短く、誰が何を言うのかを話し合えず、同じ人が話すことになってしまった。	
他の班の発表がどんな工夫がされているのか見るのが楽しかった。	
3分の発表→1分のメッセージ撮影で、間に少し打ち合わせの時間が欲しかった。	

Q3-3. ワークショップを通して得られた新たな気付きや学び

ワークショップを通して得られた新たな気付きや学び
自分たちでできることが、意外にもたくさんあるのかな、と思う。理想の未来の森林を想像できたので、30年後、実現できたらうれしい。森林が身近な地域に住んでいるので、進んで環境を守っていききたい。
北杜市という自然に囲まれた町の学校に通っているのに、今日まで全く“森”や“自然”に関心がなか

別添 9-15

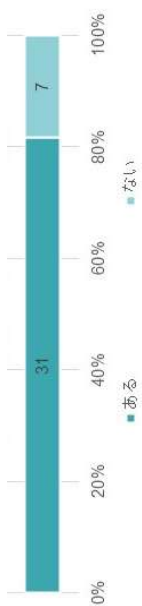
ワークショップを通して得られた新たな気付きや学び
った。しかし、今日のワークショップで、日本の自然やその活用の仕方をみんなで話し合い、学んだことで、自然を大切に、共存していかなければいけないということを考えさせられた。
今まで森林は身近にあったのに、全く興味を示していなかったことに改めて気付いた。これからは森と友達になれるよう、身近にそして親しみを持って接していきたい。
ワークショップを通して、森林を守るのは大人だから関係ないと思っていたが、自分たちが今植林などをすることによって、未来につながっていくのだと知った。また自分たちの身近にある「べるが」でも、森を活用した活動が行われていることを初めて知った。
身近な森は「暗くて、寂しい」イメージばかりだったが、私たちの想像、共生次第でいろいろなもに変えられることに気付いた。せっかくこんなにも近くにも近づくんだから、森を私たちに“Happy”にしていきたい。
普段は難しく考えられている森林や環境についてみんなで話し合うことで、楽しく知ることができるとに気付いた。また、森林は現在も人のためにうまく活用されていることも知った。
森林を守るために、実際に行動をするわけではないが、フォレストバトンを渡すことは、森林を守ろう、大切にしようという心が広がるよい機会となった。
森林を生かす新しいアイデアの発見ができた。森林を守りつつ、最大限生かすということが大切だと思った。
まず自分が思っていたよりも森林について考えていかなかったこと。そして、森林の活かし方がいろんなバリエーションで存在していたこと。僕は地域的に周りに森林がある方だが、それにしては考えが薄いなど感じた。またグループで話してみても、予想外の案が来るため、新たな考えを得ることができた。
5、6年生といろいろなSDGsの取組やワークショップは行ってきたが、一番楽しく、また森林の保全について考えることができた。ほかの班の意見も面白く、次の学校では3分間のも録画すべきだと思う。
親子そろって楽しめることが大切だとわかった。どの世代も楽しめるように施設を作れば、森への関心が持てるとわかった。
森林の「木」だけでなく、森そのものにも、様々な利用方法があると知った。
北杜市に森林が思ったよりもたくさんあったことに驚いた。また、話し合いの内容が難しいと感じたが、話してみると意外と面白い意見がたくさんあり、工夫一つでこんなに森林が変わるんだと感じた。
木は建物や紙などしか作れないと思っていたが、コンクリート、プラスチック、牛の餌などにも利用できると知り、驚いた。
他の学校の学生たちの考えを知ることができ、森林の大切さや、共存していく必要があると知れた。また、グループで話し合ったことでさらにいろいろなことが知れて楽しかった。
森林は使い方が次第でどんな世代でも楽しむことができる。
森林には大いに可能性があり、技術によって引き出すことができる。
森は大切！
よく考えなければ気付かないこともあるのだと改めて感じた。これからは普段から木について少しずつ考えていきたい。
身近にあるのに、それについて考えていないということがまだたくさんありそうなので、その新たな活用方法、守り方について、考えていきたいと思うことができた。
ほかの学生と共に、一つのことに取り組む大切さを学べた。

別添 9-16

ワークショッブを通して得られた新たな気づきや学び
改めて森林の大切さを感じた。自分の思っていた以上に森林を生かす方法があり、その方法が30年後に成功できたら嬉しいと思った。
プラスチックから牛の餌まで、木で作れるものの種類が予想外だった。
森林が身近であるように見えて、今までなかなか直接関わる機会が少なかったから、今後、積極的に関わっていきこうと思う。
友達からの情報だが、かつおぶしは木からできていると教えてもらい、とても驚いた。 [※]
森林は使い過ぎていると問題になっているが、正しい利用の仕方をすれば、ムダになることなく、木の特徴を最大限に活かして使えることが分かった。
・木からプラスチックをつくることができるということ。
・全国各地で、この取り組みをしていること。
・伝わりやすい発表をするために必要なこと。
普段木に囲まれた校舎で過ごしているが、意外と森林と接する機会が少なくないと感じた。そのため、もっと森林と触れ合い、森林の素晴らしさなどに気付いていきたい。また、森林には無限の可能性があることに他の班の発表を聞いて気付いた。そんな可能性に満ちた日本の森林をもっと守っていかうと思った。
人間と自然の関係をより身近に、より良くするには、日頃から自然に親しみ、自然（森林）の事を知ること、身近な事から行動する大切さに気付かされた。多くの自然に囲まれた北杜市の森林と、さらに向き合っていきたいと思った。
今まで深く知ることのできなかつた“森林”について、友達と情報を交換したり、共有することで、新しい考えを生み出すことができた。
木が、今ではプラスチック、コンクリート、また牛の餌になっていることを初めて知り、とても驚いた！「木っていろいろなところに使えるのだな」と改めて感じた。
私たちの周りに余るほどある森林も、30年後の未来を守るために、自分達で利用し、守っていかなければならぬということ改めて感じた。
森にも、新たな活用の仕方があるとわかった。“ワーケーション”をべるがでやっているなんて驚きだった！また、木を使ってコンクリートやプラスチックができることを初めて知った。
身近な森林について、考えることができた。
小さなことを考えることが、きつと大きな未来への希望となる。
森を使った新たな取組があることを知った。
人に伝わりやすいようにするために、発表の仕方が大切。何事も楽しむ!!
森林はどんな風にも活用できるし、いろいろな方法で神的によい所にできることを知った。
森がよい所だということ。森は何にでもなれること。
森林に全然触れ合っていないかったと改めて気付いた。森林に触れ合おう！と思った。

※ 編者注）事実ではないと思われる。

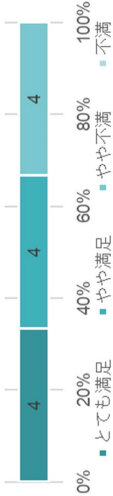
Q3-4.“もっと知りたい、調べてみたい”と思ったことの有無/関心内容（n=38）



知りたいこと、調べてみたいこと、の内容
今、実際行われている森林を守るための活動など。
森林率が高い理由。
森林はほかの地域ではどのように活用しているのか。
全国に、森・自然と触れ合える施設はどの程度あるのか。
森に関して、小さい子向けにどのような取り組みを行っているのか。
2050 年に向けて今はどんな活動がされているのかもっと知りたい。
学校に通っている地域や自分の住んでいるところの森林に関する取組。
べるがの森について詳しく知りたい。
今の状態で何かを調べても知識だけ手に入れて「ふーん」で終わってしまおうと思います。今は。
このフォレストバトン・バスを行った学校がどんな発表をしたのが気になった。北杜市だけでなく地元の森林率も調べたいと思った。
べるがの最先端技術について調べてみたい。
もっと詳しく、森の生態系、それを保つ方法などを知りたいと思った。
木材の使われ方、またそれを実際に見てみたい。
木から作れるものは他にどんなものがあるのか調べたり、発見したりしたいと思った。
他の地域の学生はどのような取組を行い、自ら行動しているのか知りたい。
ワーケーションがすごく興味深いなあと思った！また、どうやったら森林に人が集まるのかももっと考えたい。今日はとても楽しい2時間を本当にありがとございました！
まだ気付いていないことがあるので、使い方を考えていきたい。
今日自分たちの考えた方法以外には、どのような方法で森林を守るのか調べてみたい。
ワーケーションに特に興味を持った。自然に関わるのが非常に少ない、都市に住んでいる方に体験してほしいと思った。体験することで見つかるとかも発見もたくさんあると思う。
木と何かを組み合わせて何か近未来的なものを作るのも面白そうだったが、班で出た、木をそのまま活かしたアスレチック、ストリートピアノ、建物についてとても関心を持った。また機会があったら、どんどん探っていきたい。
べるがが他にどのような取組をしているのか。ほかの地域ではどのようなことをやっているのか。最新技術を使い木で代用して作ることができる製品。例）プラスチック、靴の裏底、コンクリート
日本や世界の“森林”の現状。また森林に生息する動植物の現状。日本や世界の森林率の変化。人間と自然の関係を守るための活動、取組。
私たちは 2050 年の夢物語語も含めた予想図を想像したが、現在の森林の利用方法についても知りたい。ツリーハウスやラックスした環境で仕事をしたり、様々な工夫をもっと調べたい。
木がプラスチック、コンクリート、牛のえさになっていることを知ったので、詳しく調べてみたい！（特に牛のえさについて！）
森林をどのように活用しているのか。木から作れるものにはほかにどんなものがあるのか、気になった。
森林が抱える問題について。
今、森林がどのように活用されているか。
日本の 5 つの県だけでなく、日本全国、世界の自然環境について調べてみたい。
森林は地球にどのような影響を与えているか。
もっと、今されている森林の利用方法を知りたい。
べるが。

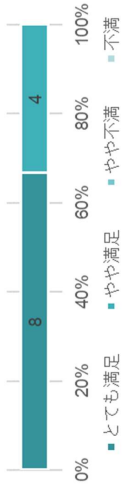
4. 静岡県 掛川市での森林体験・ワークショップ

Q4-1. 森林組合による事前講義の満足度/理由・感想 (n=12)



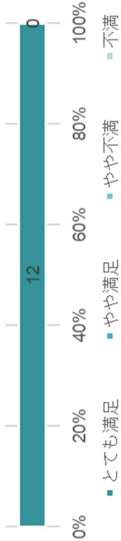
【とても満足 の理由・感想】
今まで知らなかった森林組合について知ることができて嬉しかった。興味を持った。
現場視察の内容が理解しやすくなったから。
森林体験がとてもワクワクするような内容だったから。
森林管理のことを事前にある程度知ることができたので良いと思った。
【やや満足 の理由・感想】
概要を理解できたから。
近くて遠い山をすぐ近くで感じることで、本来することができない体験ができたから。
E-MTB が楽しかった。
当日の活動部分が増えたのはよかった。
【やや不満 の理由・感想】
質問が下手で恥ずかしかった。
ちゃんと森林のことについて説明してくれたけど、話がよく分からなかった。
最初は何をややるのか不安なところもあったけど、十分に説明していただいたおかげで楽しみなになった。本当に待ちきれなかった！
親類が林業を営んでいるということもあって元々林業には興味があり、楽しんで講義を受けることができた。

Q4-2. 森林施業の現場視察の満足度/理由・感想 (n=12)



【とても満足 の理由・感想】
森林の作業について知らないことを知れたから。
普段見えない機械を見られ、現場で作業をしている方々の声が聞けたから。
木を伐採する機械を見たり、実際に木を伐る場面を見て学んだりできて、とても面白かった。
伐採や植林には色々な工夫が施されていて、とても興味深かったから。
木を伐るところを初めて見て、とても迫力を感じた。
普段は見ることのできないような山の中で、間伐された森林を見ることができ、森林の管理の様子を知ることができてよかった。
実際に広い広い森林の中に入り、生の木もれ目を浴びることができて感動した。大きな木を伐るところや、未来の木がたくさん植わっているところを間近に見られたところも良かった。
初めての事なので興奮したし、ハイテクな機械があり驚いた。
【やや満足 の理由・感想】
チェーンソーの迫力がすごかった。
いつもは行くことのできないところに行けて、森林間伐をまじかで見ることができたから。
機械に触れてワクワクした。
今まで知らなかった知識が得られた。

Q4-3. E-MTB、まき割り、スウェディッシュトーチの満足度/理由・感想 (n=12)



【とても満足 の理由・感想】
経験したことがなくてワクワクした。
E-MTB に初めて乗ったけれど、坂道でもスイスイ進めて楽しかった。
乗る機会のない E-MTB に乗れた。自転車に乗って自分で森の中を走れたから。
まき割りやスウェディッシュトーチは初めてで、新鮮でとても楽しかったから。
自転車がとても楽しかった。
木を活用していて凄いなと思った。まき割りを初めてやって楽しかった。坂道を楽々上れて、新鮮な体験ができた。
E-MTB がとても楽しかった。
なかなかできないような体験で、とても興味深かった。
まき割りは自分の父がやっていた、今回初めて薪まき割りをして、思い通りに割れなくて、父の苦労が知れた。
E-MTB は、乗る機会があまりないので、本当に貴重な体験ができてよかった。
普段できない贅沢な体験をできて満足している。E-MTB に乗れば急な坂も楽に上れることを実感し、今の技術ってすごい！！と思った。
まき割り、とても楽しかった。特に、割れた瞬間が快感だった。

掛川市【学生】

Q4-4. 森林管理の現場観察や E-MTB、まき割り、スウェディッシュを体験して得られた新たな気づきや学び

新たな気づきや学び

森の魅力の新たな伝え方。

木は思っていたよりいろいろなことに使えるんだなと感じた。

森林の新たな使い道や、古い木の使い方。

木を余すことなく使っていることがわかった。

実際の現場を見て、木を管理することの大変さがよく分かった。木を大切にしたい。

E-MTB のような人の暮らしを便利に、楽しくし得る製品の開発に興味を持った。

林業は、木を伐採するだけでなく、サービスを提供したり製品を販売したりしていること。

森は自分たちにレクリエーションの場を生んでいることが分かった。また、その活動を通して人間の心は豊かになると思った。

今回のような森林との距離が近づくような体験があると人々の森林に対する意識が変化すると思った。

林業の仕事は"力仕事"というイメージが強く、働いている方々も疲労が溜まり過ぎているのでは？と思い見学に行ったが、みんな生き生きと働いて、仕事に誇りを持っているように見えたので、とても頼もしかった。また、現場や事務所の中の温かい雰囲気もとても好きでした。これから何かしらの形で林業を支えていきたい。

森林がきれいなのは誰かが手入れをしているからだと感じた。

Q4-5. 2050 年の未来予想図作成グループワーク/発表の取り組みやすさ/理由・感想 (n=12)

3

4

■取り組みやすかった■取り組みにくかった

【取り組みやすかった理由・感想】

やることが明確だったから。

説明が分かりやすかったから。

事前に計画してあってよかった。

手順がしっかりしていた。

30 年後、機械や技術はさらに進歩していくと思うが、森はそのままの姿であり続けてほしいと感じた。

森林体験の後に行うことで、森林に対する考えや意見が持ちやすかった。

自分の意見を言いやすい雰囲気があって、色んな人の意見もたくさん聞くことができたので良かった。

自分の知識だけでは限界があるので、新しい発見ができた。

【取り組みにくかった理由・感想】

時間が少し足りなかった。

グループ分けが適当すぎた。

掛川市【学生】

Q4-4. 森林管理の現場観察や E-MTB、まき割り、スウェディッシュを体験して得られた新たな気づきや学び

新たな気づきや学び

森の魅力の新たな伝え方。

木は思っていたよりいろいろなことに使えるんだなと感じた。

森林の新たな使い道や、古い木の使い方。

木を余すことなく使っていることがわかった。

実際の現場を見て、木を管理することの大変さがよく分かった。木を大切にしたい。

E-MTB のような人の暮らしを便利に、楽しくし得る製品の開発に興味を持った。

林業は、木を伐採するだけでなく、サービスを提供したり製品を販売したりしていること。

森は自分たちにレクリエーションの場を生んでいることが分かった。また、その活動を通して人間の心は豊かになると思った。

今回のような森林との距離が近づくような体験があると人々の森林に対する意識が変化すると思った。

林業の仕事は"力仕事"というイメージが強く、働いている方々も疲労が溜まり過ぎているのでは？と思い見学に行ったが、みんな生き生きと働いて、仕事に誇りを持っているように見えたので、とても頼もしかった。また、現場や事務所の中の温かい雰囲気もとても好きでした。これから何かしらの形で林業を支えていきたい。

森林がきれいなのは誰かが手入れをしているからだと感じた。

Q4-5. 2050 年の未来予想図作成グループワーク/発表の取り組みやすさ/理由・感想 (n=12)

3

4

■取り組みやすかった■取り組みにくかった

【取り組みやすかった理由・感想】

やることが明確だったから。

説明が分かりやすかったから。

事前に計画してあってよかった。

手順がしっかりしていた。

30 年後、機械や技術はさらに進歩していくと思うが、森はそのままの姿であり続けてほしいと感じた。

森林体験の後に行うことで、森林に対する考えや意見が持ちやすかった。

自分の意見を言いやすい雰囲気があって、色んな人の意見もたくさん聞くことができたので良かった。

自分の知識だけでは限界があるので、新しい発見ができた。

【取り組みにくかった理由・感想】

時間が少し足りなかった。

グループ分けが適当すぎた。

掛川市【学生】

Q4-6. フォレストバトン・パス メッセージ撮影の取り組みやすさ/理由・感想 (n=12)

7

5

■取り組みやすかった■取り組みにくかった

【取り組みやすかった理由・感想】

問題について分かち合えた。

ムービーで理解できて、グダグダだったけど楽しかったから。

事前に計画が立ってあってよかった。

ほかの学校の生徒の意見を知ることできさらに森林に対する考えが深まると思うのでよいと思った。

とても楽しく、よい雰囲気での取り組みができた。しかし、準備が不十分で上手く発表ができたので、もう少し準備の時間が欲しかった。

事前にほかの学校のビデオを見たため、流れを汲み取るのは簡単だった。

【取り組みにくかった理由・感想】

考える時間が短かった。

時間が短い。

カメラを向けられるのが苦手。

もっとじっくりやりたかった。

あまり時間がなくて、心の準備ができていなかった。

Q4-7. 全体を通して、“もっと知りたい、調べてみたい”と思ったことの有無・関心内容 (n=12)

6

6

■ある■ない

“もっと知りたい、調べてみたい”と思ったこと・関心内容

木の活用されている場所。

林業の技術。

森林が人間にもたらす恩恵。

他の人の森林の未来予想図も知りたいと思った。

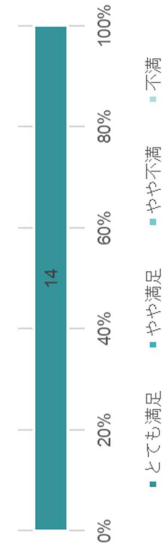
森林を“守る”人について知ることができたので、その森林を“使う”ことについて詳しく知りたい。

日本で林業を平地で行うことが可能か気になった。

別添 9-21

別添 9-22

5. 長野県 根羽村での森林体験・ワークショップ
Q5-1. 森林体験の満足度/理由・感想 (n=14)

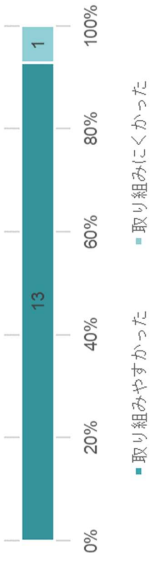


【とても満足 の理由・感想】
見たものいろいろあって、いっぱい拾ってかわいいいリースが作れたから。
自然のきれいな空気や、すてきな作品が作れたから。
見たことのない根羽の自然を知ることができたから。
木の実など知らなかったものも知ることができたから。
今まで、見ることができなかった森を見られたから。
山の散歩や、リースを作れたから。
普段見れない森の姿をゆっくり見ることができた。
森のまだ知らない所へ行き、木や草などを多く知れて楽しかった。
鹿が獲れてよかった。
森のことを知れた。
初めての森林体験だから。
鹿が獲れてよかった。また森の奥深くに入って、ハンティングの様子を見た。
鹿を狩る瞬間をこの目でしっかりみることができたから。
初めての体験で、とてもワクワクしたし、運のよいことに実際に鹿をと獲れたからよい。

Q5-2. 森林体験を通して得られた新たな気づきや学び

新たな気づきや学び
思った以上にゴミが落ちていたこと。
ゴミが多かった…。
根羽の森にはゴミが多くあること。
根羽の森はきれいだと思っていたがゴミが多かった。
まだまだ、たくさんさんの課題が山にはあること。
色んなきのこがあること。ゴミが多いこと。
落ち着く。
根羽の森はすごくゴミが多かったというところに新たに気付いた。
みんなで協力することが大切だと学んだ。
指先に寒くて感覚がなかった。
動物がたくさんいる。
森は静かにしていると、「風の音」や「川の音」など自然をよく感じることもできた。
道はあるけど、木や小枝とかで通りにくかった。
みんなで協力したら、大抵のことはできる!!
森林を近くで感じられ、空気のきれいさ、水のきれいさを知った。

Q5-3. 2050 年の未来予想図作成グループワーク/発表の取り組みやすさ / 理由・感想 (n=14)

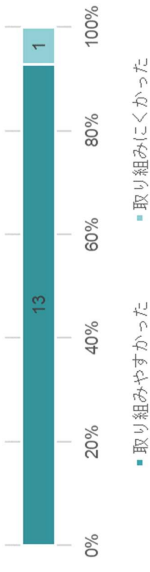


【取り組みやすかった理由・感想】
みんなで協力できたから。
現在から理想を考えるのがやりやすかったから。
自分の意見を素直に言えた。
みんなと協力をしてできたから。
自分の案を言えたから。
ゴミや道の歩きづらさとか、たくさん課題が見つかった。
グループの人と相談しながらよい発表ができた。話して一人ひとりがちゃんと話を聞いてその意見のよい部分を共感できた。
グループの人と相談しながらよい発表ができた。
みんなで楽しく「夢」を膨らませて話し合えたから。
ほかの人と相談して、よい発表をして、自分の意見を伝えることができた。
自然とみんなです話し合えたし、考えをさらに深められた。

【取り組みにくかった理由・感想】

話があまりできなかった。

Q5-4. フォレストバトン・パス メッセージ撮影の取り組みやすさ/ 理由・感想 (n=14)



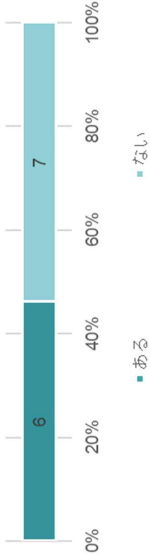
【取り組みやすかった理由・感想】

みんな協力できたから。
自分の思ったことを絵に描くことができたから。
みんな協力することで、やりやすかった。
しっかりと話し合いをしておいたから。
リースを見せられたから。
気合でなんとかできた!!
みんなが楽しみながら撮影をしていて、すごく楽しかった。
みんなが気持ちを合わせてフォレストバトンを渡せてよかった。
最後には、バトンをみんな楽しんでくパスできた。

緊張したけど、しっかり最後までしゃべることができた。
みんなが集まって撮影できて、絆も深められた。

【取り組みに良かった理由・感想】
顔を写されたくない。

Q5-5. 全体を通して、“もっと知りたい、調べてみたい”と思ったこと・関心内容 (n=13)



“もっと知りたい、調べてみたい”と思ったこと・関心内容
色んな山に入って調べる。
ハンティングの方も見てみたい!!
ほかの地区の森も見たい。
狩りをした動物は、その後どのようなようになっていくのか。
いろいろな意見がでてきたけど、ほかの人たち（大人など）の意見も聞いて、どんな森にしたいか、一人一人の絵を見てみたい。
なぜ2050年の森なのか？

別添 10 アンケート結果

【教職員・関係者】

1. 共通質問項目 集計結果

1. 共通質問項目 集計結果	別添 10-2
2. 地域別質問項目 集計結果	別添 10-8
2.1 福岡県 篠栗町での森林体験・ワークショップ	別添 10-8
2.2 静岡県 掛川市での森林体験・ワークショップ	別添 10-10
2.3 長野県 根羽村での森林体験・ワークショップ	別添 10-12

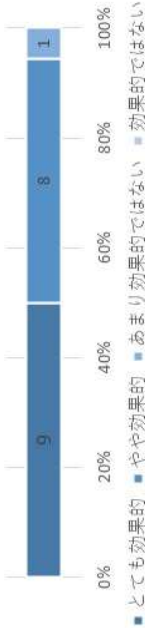
アンケート結果【教職員・関係者】 目次

アンケート実施概要

開催地	アンケート回収数	回答者属性	アンケート方法
東京都内		(実施せず)	
福岡県 篠栗町	7	教職員、保護者	用紙記入
山梨県 北杜市	3	教職員	用紙記入
静岡県 掛川市	3	教職員、地域関係者	用紙記入
長野県 根羽村	7	教職員、地域関係者	用紙記入

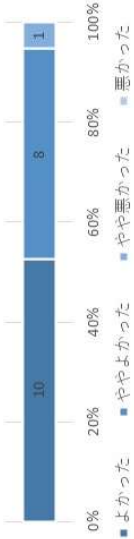
- ※ 無回答は設問ごとに集計から除いたため、同じ開催地でも設問によってデータ個数 (n) は異なることがある。
- ※ もともとの回答から、語尾や言い回しを修正したり、意味が通りやすくなるよう補った部分がある。

Q1-1. 2050 年の未来予想図作成グループワークは、生徒が森林と自分との関わりに対する理解と関心を高めるのに効果的か？／理由・感想 (n=18)



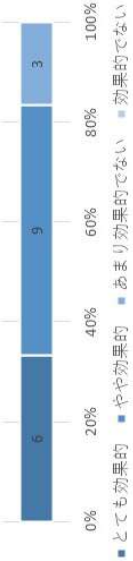
【“とても効果的” 理由・感想】	開催地
実際に森に触れた後だったので、考えやすかった。その上で、未来の森について考えるので、より深く考えることができた。	根羽
本来、周囲の大人が考えるべきことだと思うが、逆に周囲の大人が無関心な分、真っ新な気持ちで取り組めたので、よかった。あのようなメッセージ性の高いオプジェができるとは思わなかった。	根羽
未来を考えるのはとても大切だと感じたが、 具体が感じられないと、考えるのが少しいい加減になってしまう 。	根羽
北杜市にある本校は、森林との関わりをとても身近に感じていた。	北杜
五感のキーワードを与えようと、森林セラピーと一緒に、自分とのかかわりが見つけやすいと思う。	篠栗
様々な発想があり、よかった。	篠栗
グループで話をする、まとめることがよかった。	篠栗
はじめ、なかなか意見や考えが出にくい様子なので、アイスブレイキング的なことを行ったらどうか。	篠栗
【“やや効果的” 理由・感想】	開催地
森の現状を把握し、30 年後の森づくりのために自分たちは今何をすべきか考えることができた。	根羽
リアルに考えるのか、夢物語とするのか、子どもたちの中でも迷いを感じた。定期的に実施すると、とても効果的である。	根羽
森と自分との関わりは机上で生まれるものではない。午前中に体験した素晴らしいプログラムは、生徒のこれからの日常生活の中で徐々に効果を表すものだと思う。森から日常に戻って生活する中で、森について自分ゴトになり、初めて気が付いていくのではないか。	掛川
事前学習が少し不足していた。当日、グループワークでやることや、他校の様子を見て、自分不足の考えをもう少し深めさせておくと、もう少し深くできたかもしれない。生徒が自然は誰かのもので誰かが守ってくれるもの、という漠然とした感覚がこれからの若い人の中にはより強く芽生えていくのだと思う。自分ゴトなんだ、と考えるきっかけを作るとはとても重要だと思う。	掛川
事前の知識がなく、情報も少ないため。	北杜
このような機会がなければ、なかなか考えることがないので、効果的だと思う。	北杜
【“あまり効果的ではない” 理由・感想】	開催地
夢を膨らませて考える時間がなかった。	根羽

Q1-2. 未来予想図作成グループワークの内容／理由・感想 (n=19)



【“よかった” 理由・感想】	開催地
森の中から、生活ゴミがたくさんあることに気が付き、森のめぐみから生まれたリースとゴミを対比したオブジェを作ることができた。	根羽
リース作りは、とても楽しそうだった。	根羽
まず自分の30年後を予想することが、考えやすく感じた。時間が少なく、煮詰まらなかつたところあり。	根羽
森を歩いて、みんなで話をして、子どもたちのアイデアがどんどん出てくるので、すごいなと思った。発表までの時間があまり無かったが、台本まで書けたらいいなと思う。	篠栗
未来を自由にというのがよかった。	篠栗
短い時間で考えをまとめ、アイデアも面白かった。	篠栗
皆で、思ったこと、感じたことをたくさん発表していて、面白く良かったです。	篠栗
大人の関わり方がよく分からなかった。一緒に考えるのか、見守るだけが良いのか。	篠栗
【“ややよかった”理由・感想】	開催地
作品のグループによる違いが大きいと思った。	根羽
子どもたちがもう少し見通しを持ってじっくり考える時間があると、なおよかった。	根羽
内容や、生徒の理解を深めるための手順は良いと思ったが、分刻みのスケジュールで慌ただしかった。必要な工程とそうでないもののメリハリが必要だと感じた。	根羽
授業者の伝えたいことがはつきり明文化されていて、押さえるポイントがとても分かりやすかった。タイトな時間設定の中でまとめと発表までさせられたこともすごいと思う。	
高校生という、大人の意図を読み取る力が強い年齢だと、ワークショップの雰囲気はとても重要になってくる。ざっくばらんな話がしたいときはざっくばらんな雰囲気を。締めたいときはピンとした雰囲気を授業者側が作ってあげると発言の内容も変わってくる。	
今回の生徒さんたちはとてもまじめな雰囲気だったが、それぞれ住んでいる環境が自然に近かったりなど、面白いバリエーションがあった。ラブな雰囲気であったら、もっと生徒さんが自分たちの生活に近い自然をどうしていきけるのか、など話が進んだかもしれない。	掛川
生徒の発表は上手だったと思うが、どの学校の生徒も同様にできるかは疑問。生徒に全て委ねているような進め方。	北杜
時間が短い。	篠栗
【“やや悪かった” 理由・感想】	開催地
時間が短い。	根羽

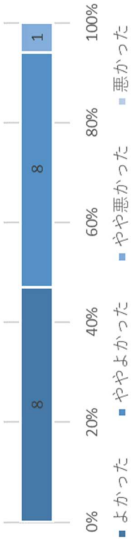
Q1-3. フォレストパトン・パス メッセージ撮影は、学生が森林と自分の関わりに対する理解と関心を高めるのに効果的か？／理由・感想 (n=18)



【“とても効果的” 理由・感想】	開催地
継続していくという点において、関心が高く効果的だった。	北杜
発表もグループごとに個性があって、見ていて楽しかった。もう少し時間があれば、練習できてよかったかも。	篠栗
【“やや効果的” 理由・感想】	開催地
自分たちだけでなく、他地域と連携してもらおうことで、より上を目指そうと思える。	根羽

相手意識をもって取り組めるため、自分たちの森について伝えようと関心を高められた。	根羽
前の学校だけでなく、全体像が子どもたちに伝わりやすくなった。今後のために期待します。	根羽
フォレストパトンをパスする意義を、もう少し理解させたかった。	掛川
よその地域とつながっていくんだと思うと、単発では違うモチベーションが湧くと思う。	掛川
他校のメッセージを見ることがのメリットはあると思う。	北杜
他の地域の取組の様子を知るのに役立つと思う。	北杜
【“あまり効果的でない” 理由・感想】	開催地
他県の生徒がどの様な取組を通じてどの様な考えに至ったか等、情報が少なく、また理解できて十分な時間が取られていなかったもので、パトンパスの意味合いが薄れていると感じた。	根羽
つなげる必要性をもっと感じられるといいなと思った。	根羽
同じ体験をしていない他グループと、何を共感しパトンを回していくかが、よく分からなかった。	掛川

Q1-4. フォレストパトン・パス メッセージ撮影の内容 (n=17)



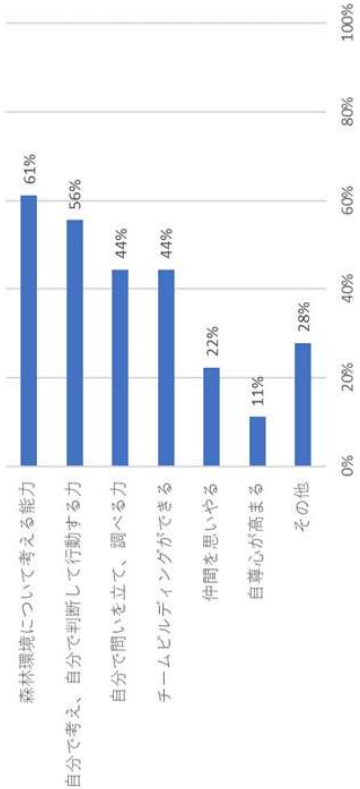
【“よかった” 理由・感想】	開催地
大きい紙に発表内容をまとめられたため、よかった。	根羽
発表もグループごとに個性があって、見ていて楽しかった。もう少し時間があれば、練習できてよかったかも。	篠栗
【“ややよかった” 理由・感想】	開催地
時間が足りなくて、きちんとしたメッセージ発信ができなかったが、子どもたちはがんばったと思う。	根羽
もう少し話し合っって内容を考える時間があるとよかった。	根羽
自分たちのメッセージを他に伝えるために考えるというこは、良かったと思う。	根羽
形だけになってしまいう部分がある。もう少し楽しくできる工夫があるといい。	根羽
時間が足りないのか、演出のやり方が分からないのか、分かりづらいうところも多々ある。パトンの造花はいかがか？	根羽
生徒の力不足は否めない。	掛川
動画撮影はやはりもう少し練習させてもらえらると、もっとまとまったものになると思う。	北杜
【“やや悪かった” 理由・感想】	開催地
午前中の体験を生徒が自分ごとにするには、時間・日数がかかる。	掛川

Q1-5. 森林体験、2050 年の未来予想図ワークショップ、フォレストパトン・パス 全体を通して感想、気づいた点、改善点

コメント	開催地
今回の未来予想図ワークショップで、全国から数校が参加したが、それぞれの学校を結んで意見交換ができると、さらに深めることができた。	根羽
今後の運動の高まりに期待する。	根羽
今回と異なる山に入り、前回の比較や、どうして違うのかの考察等の取組があった方がよい。また、その間に森林への理解や興味・関心をさらに深める少し踏み込んだ授業があっても良いと思った。	根羽
これが単発の活動で終わらないように、続けていけるとよいと感じた。	根羽

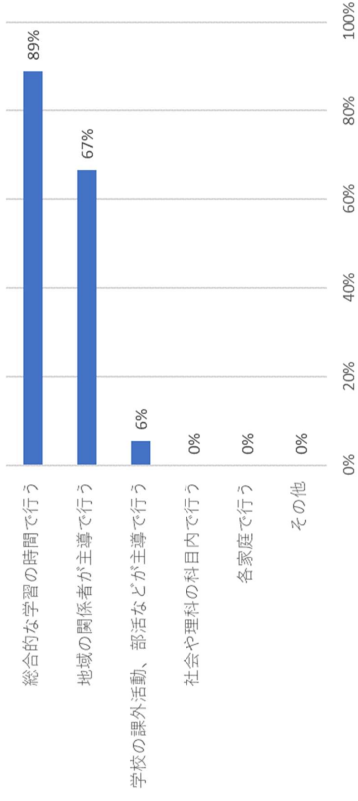
コメント	開催地
学生のつながりが今後広がっていくことを期待している。来年以降もぜひ他校にも参加してもらいたい、日本全土で未来について考えてもらいたい。	根羽
当初のプランが、郡会に住む人が見た田舎や森のイメージが強かった。 2050年という未来の森に対して、生徒がどのように自分ごととにできるのか、という生の体験こそが重要だと思う。	掛川
”2050年の未来予想図”のイメージがとりとめない感じだったので、事前に少しレクチャ一しておけばよかったかもしれない。	掛川
どんなに自然に近い住環境にいても、よその山と子どもとの距離は決して身近でないことが分かった。身近で、好きな場所になってもらうことが、考えてもらうことへの第一歩であり、一番の近道だと思う。そのための良い経験になったと思う。	掛川
せっかくなので、学年全員とかがよかったんじゃないかと思う。	篠栗
住んでいても、こういう機会がないと森を歩かないので、いい体験ができた。子どもたちも、地域のことを知ることができ、フォレストバトン・パスではかの場所に住んでい中学生とも交流ができて、よかったと思う。	篠栗
今までは山頂に登ることが目的だったが、今回、森の案内人の方に植物・木・森の楽しみ方を教えていただいた。森林セラピー大切です、と改めて思う。	篠栗

Q1-6. 森林体験や森林学習を通し身に付くことを期待する力 (n=18) ※複数選択



「その他」の記載内容／コメント	開催地
根羽村ならあまり心配はないが、外で遊ぶ機会が減っていると感じる。森林について考え、その素晴らしさに気付きたい。	根羽
自分たちの生活（水）と森が結び付いている場所なので、この地域に住む人たちが、この村がどう森と付き合っているかを見たい。疑問や問題点に気づき、仮説、検証、提案ができる力が身に付く。	根羽
森林が生活に身近でありながら、解決すべき問題が山積しているから。	根羽
やり方次第で、「生きる力」が付く	根羽
人間の本質的なものとして、自然を求める心があることに気づくこと。	掛川
将来、科学技術がどれほど進んでも、人間が自然界の生物である限り、自然（森林）を求める心はあると考えられるから。	掛川
木の年齢を知り、森林の大切さを感じたいと思う。そしてグループで話し合うことで、考えが増える。	篠栗
グループに分かれて皆で話し合っている姿に、楽しく学ぶことができたんだと思った。	篠栗
自分でも考え、友達と話し合い、発表し、自尊心も高まる活動で、とても良かった。	篠栗
自然への畏敬の念を持つことができる。近くに自然があってもなかなか触れていない生徒もいるので、森林体験は貴重だと思う。	篠栗

Q1-7. 森林体験や森林に関する学習は、どのような形で行うことが妥当か？ (n=18) ※2個まで選択



コメント	開催地
教科では、時数が限られており難しい？今回のような形は良いと思う。	根羽
教員だけの力では知識・技能が全く足りない。協力は絶対必要。	根羽
学校だけでなく、地域と一体となって行うことが重要だと思う。	根羽
理想は各家庭だが、森林に関する知識や関心のない家庭も多くある。教師や専門職従事者から、しっかりと教育を受けようと思う。	根羽
自然と親しむ活動は、どの教科どの時間、誰もがやっていくことが大事だと思う。誰かがとなると、いつかやらなくなっていくと思う。	根羽
校外の実施が、新たな気づきにつながると思う。地域と一体で実施すると、地域全体で考える。	根羽
森=衰退、林業=きつい、大変 という都会から見た図式に違和感を覚える。	掛川
現場でいきいきと活躍する林業従事者の姿や言葉こそが、大切なのではないか。	北杜
実際に校外学習等で体験をしていけば、より良い学習の場になるだろう。	篠栗
全体的に時間が足りていない。年間の活動にしたらよい案がもっと出ると思う。	篠栗
体験しないとは分かっていないことが多いので、ゆとり時間を取り、知識のある人の話を聞いた方がよいから。	篠栗
今回は、参加する・しないを自分で決める感じだったが、内容もよかったので、総合的な学習の時間で行ってもよいのでは、と思った。	篠栗

Q1-8. 同様の趣旨の森林体験・ワークショップを総合的な学習の時間で実施することは可能か？

【“可能と思う”理由】	開催地
総合的な学習では、現在でも地域に目を向けた活動をしており、十分実施可能だと思われる。時数が限られているので、狙いをはききらせて行う。	根羽
今日のようなら、いくらでもできると思う。	根羽
協力してくれる（講師となる）大人がいればもっと良いと思う。	掛川
可能であると思うが、地域と学校との連携や中長期プログラムとしての内容の構築は必須。2時間は必要である。	北杜
【“可能と思わない”理由】	開催地
子どもたちが自ら問題意識を持ち、子どもたちが求めたときに、情報や技能を与えてくれる体験にならないと、ただ大人の押し付けたりさせる活動になってしまう。	根羽
森林に行くことができ、林業従事者に話を聞けるかどうか。	掛川

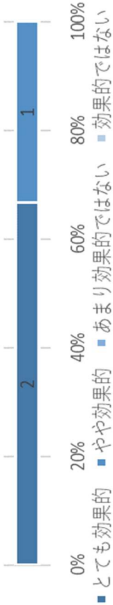
Q1-9. 同様の趣旨の森林体験・ワークショップを総合的な学習の時間で実施するために必要なこと、ハードルと考えられること

コメント	開催地
自由参加のため、来ない子もいる。機会のすばらしさを共有していきたい。	根羽

地域別質問項目集計結果―篠栗町【教職員・関係者】	
【“よかった” 理由】	
案内人の方の説明が分かりやすく、森をのんびり歩くことができてよかった。	
登山はすっごく疲れて、明日、月曜日の筋肉痛が怖いですが、なかなか体験できないし、参加できてよかった。	
少人数に分かれてできたことが効率的。	
森の中で寝てみたり、メッセージを書いてみたり、個人で森に行ってもなかなかできない体験ができ、よかったと思う。	

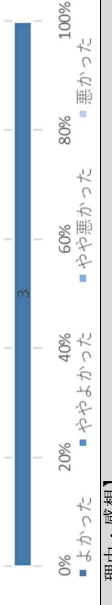
2.2 静岡県 掛川市での森林体験・ワークショップ

Q2-2-1. 「森林施業の現場（間伐・植栽）視察」は、学生が森林と自分の関わりに対する理解と関心を高めるのに効果的か？ (n=3)



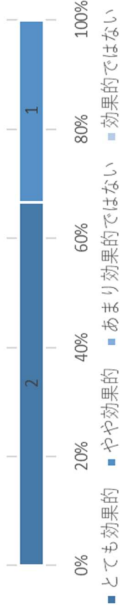
【“とても効果的” 理由・感想】	実際に木を伐るところを、現場で体験することで、木の大きさ、木の香り、チェーン・ソーなどの機械の音、木の倒れる様子などが実感できた。映像とは比較にならない。
【“やや効果的” 理由・感想】	今回の視察は生徒さんにとっても新鮮で刺激的だったと思う。また、国内の針葉樹の活用がまれている現場を見られたことも有意義な体験だったと思う。 学生が森林と自分の関わりに対する理解と関心を高めることの契機にはなったと思うが、針葉樹林や林業の森はあくまで山の持つ一つの面である。雑木の森や広葉樹の産業ver.など、もう一つ違う面を学んだとき、比較ができて初めて自分が守りたい森の形などが見えてくるのではないかと思う。

Q2-2-2. 「森林施業の現場（間伐・植栽）視察」の内容 (n=3)



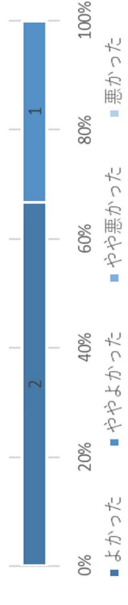
【“よかった” 理由・感想】	とても充実していたが、掛川市森林組合の犠牲のもとに成り立っていることが気になる。
【“よかった” 理由・感想】	丁寧の説明してもらい、ありがたかった。
【“よかった” 理由・感想】	森林組合の皆さんの説明スキルが高く、見ていて面白い内容にプログラミングされていたと思う。

Q2-2-3. 「森林の活かし方（E-MTB、まき割、スウェディッシュトーチ）」は、学生が森林と自分の関わりに対する理解と関心を高めるのに効果的か？ (n=3)



【“とても効果的” 理由・感想】	百聞は一見に如かず。
【“やや効果的” 理由・感想】	森林の遊び方を知れて、関心の高まった生徒さんもあると思う。使う場を部活で持てるとよい。

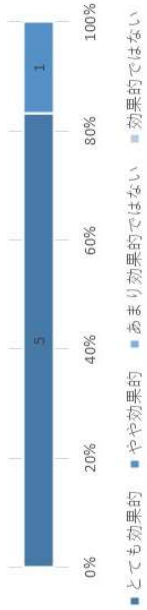
Q2-2-4. 「森林の活かし方（E-MTB、まき割、スウェディッシュトーチ）」の内容 (n=3)



地域別質問項目集計結果一掛川市【教職員・関係者】	
【よかった 理由・感想】	
とても素晴らしかったが、コンセプトのご好意に依存している点が気になる。すべて体験させてもらえて、生徒にはとてもよい経験となった。	
【ややよかった 理由・感想】	
時間の制約の中で触れられたことの意味は大きかった。0か1かは全く異なる。とはいえワークとしての力はそれほどなく、あくまで体験の一つだったと思う。E-MTBでもっと森深くまで行って、まき割りやトーチで火を付けて、とすることが理想だと思う。	

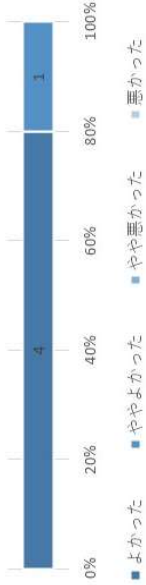
2.3 長野県 根羽村での森林体験・ワークショップ

Q2-3-1. 「森林体験（狩猟／採集）」は、学生が森林と自分の関わりに対する理解と関心を高めるのに効果的か？ (n=6)



【とても効果的 理由】	
森林に囲まれた環境に生活していても、森と関わることの少ない子どもたちにとって、良いきっかけづくりになった。	
体験をふまえて森林について考える機会になっているので、とても効果があると思う。	
森林を知るには、実際に山に入り、身をもって感じる事が大切であることが改めて分かった。最初は、山の近くに住みながらも、森林のことをほとんど知らない生徒だったが、本ワークショップを通じて、山の問題提起までできるようになった。	
山の中に実際に入ることで、具体的に山の良さや課題を感じる事ができる。獐では、じっとしている時間が長い、そうしないと動物が出てこないことや、実際に動物が通る感動がある。生徒が企画・運営し、大人がサポートすることで、生徒の自主性や感性を表現でき効果的であった。	
【やや効果的 理由】	
自分が実際に森に入って現実を知ることができ、問題意識を持つことができていた。	

Q2-3-2. 「森林体験（狩猟／採集）」の内容 (n=5)



【よかった 理由】	
子どもたちが森から採ったツルや草木で縄跳びやリース作りなど、自分たちで考えて遊ぶことができた。	
生徒たちの自主性に任せるのも重要だが、段階を追って、より「暮らし」との関わりを理解しやすい内容に誘導してあげても良いと思った。	
子どもの中から出てきたもの、とても興味深く取り組んでいた。	
実は山にゴミが多い。	
本物の「命」（ゲームではない）に接し、感じることも多かったのではないかな。	
【ややよかった 理由】	
獐に参加させていただけ、普段近くで見ることのない仕事を見ることができ、よい体験になった。	

別添 11

2050 年の未来予想図ワークショップ

～フォレストボタン・パス～

実施マニュアル

別添 11

令和2年度 つたえる、感じる、つながる、森林×SDGsプロジェクト事業

2050 年の未来予想図ワークショップ ～フォレストボタン・パス～

実施マニュアル

(株) かいはずマネジメント・コンサルティング

(一社) 森と未来

2021 年 3 月

目次

1. はじめに	別添 11-2
2. 未来予想図ワークショップの構成要素と組み立て	別添 11-3
2.1 未来予想図ワークショップの目標設定	別添 11-3
2.2 ワークショップの構成要素と組み立て	別添 11-3
2.3 学習テーマの設定	別添 11-4
2.4 森林体験	別添 11-6
2.5 未来予想図作成	別添 11-7
2.6 動画メッセージ撮影	別添 11-9
2.7 モデルプログラム	別添 11-9
3. 未来予想図ワークショップ実施にかかる留意点	別添 11-10
3.1 必要物品	別添 11-10
3.2 協力機関や保護者との調整	別添 11-10
3.3 広報・对外発信	別添 11-10
3.4 学生の自主的な活動を促す工夫	別添 11-10
3.5 ファシリテーション上の注意	別添 11-10
4. ワークショップで使用するワークシート例	別添 11-11

1. はじめに

この「2050 年未来予想図ワークショップ～フォレストバトン・パス～実施マニュアル」は、「令和2年度 つたえる、感じる、つながる、森林×SDGsプロジェクト事業」(以下、「森林×SDGsプロジェクト事業」)で実施した未来予想図ワークショップの結果と教訓を踏まえ、将来も様々な形でワークショップが実施されることを想定して作成したものです。

未来予想図を描く目的は、未来を担う中学生・高校生が、森林と自分たちの暮らしの関わりを「自分ゴト」化し、森林に対する理解・関心を高めることにあります。持続可能な開発目標 (SDGs) の趣旨を参考に、地域、日本、世界、地球が 2050 年にどのようなになっているか、その中で、将来の自分たちと森や都市の関係をどうしていきたいか、地域はどうなってほしいかなどを描くものです。

このワークショップには、以下のような利点があります。

- 「森林」を軸として、森林とつながる地域、日本、世界という広い視野を意識させることができる。
- 「森林」を切り口に、様々な角度から SDGs について理解を深めることができる。
- バック・キャスティング (現状や課題から未来を考えるのではなく、「ありたい姿/あるべき姿」から逆算で“いま”を考える) によって、目の前の課題のみにとらわれることなく、自由に未来の姿を想像できる。
- 「ワークショップ」による共同作業によって、主体的・対話的な深い学び (アクティブ・ラーニング) が期待できる。
- 中学校、高校の「総合的な学習／探求の時間」など、学校のカリキュラム内の時間を使える。
- 地域を巻き込んだ「森林体験」によって、地域資源を活用した教科横断的な学習、地域と学校の連携・協働の促進が狙える。

森林は SDGs への貢献も大きく、体験活動の題材としても適切です。未来予想図の作成は、各自の関心に基づき、地域と連携しながらさらなる森林体験や探究活動を行い、自分の関わり方を仲間とともに考えることで、主体的・対話的で深い学びにつながる可能性を秘めています。

2. 未来予想図ワークショップの構成要素と組み立て

2.1 未来予想図ワークショップの目標設定

未来予想図ワークショップの実施にあたっては、目標の設定が重要です。以下の点を考慮し、それぞれの実施主体や地域の実情に適した目標設定が必要です。

- 生活圏内における森林の有無
- 日常的な森林との関わりの有無
- 担当の教師が準備にどの程度時間を費やせるか
- 学校以外の機関などと協力体制がとれるか

図1に目標設定の一例を示しました。

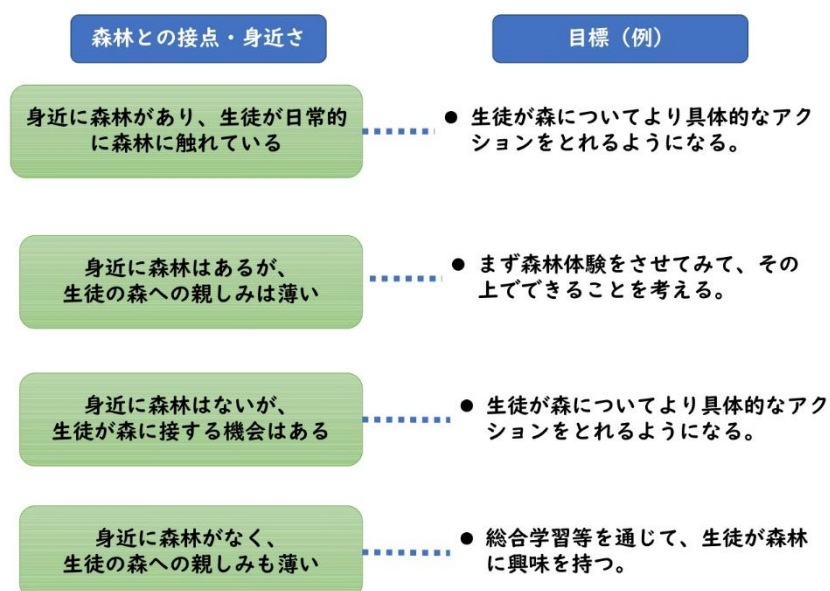


図1 目標設定の一例

2.2 ワークショップの構成要素と組み立て

ワークショップの構成要素には、①事前学習、②森林体験、③未来予想図作成、④動画メッセージ撮影があります。表1は、「森林×SDGsプロジェクト事業」で実施した実際のワークショップの構成要素および実施日をまとめたものです。表1の事例では、数時間から最大でも2日で開催しましたが、時間に余裕があれば、単発のイベントで終わらずに、①自由に森林の未来のことを考えるワークショップと、②課題解決力を養成するために自分にできるアクションを考えるワークショップを分けて実施することも一案です。これにさらに事前学習を組み合わせればシリーズ化もできます。各構成要素については、後述します。

表1 「森林×SDGsプロジェクト」におけるワークショップの構成要素と実施所要時間のまとめ

事例	①事前学習	②森林体験	③未来 予想図ワ ークショ ップ	④動画メ ッセージ 撮影	実施日と 所要時間
A	・各自の森林体験の振り返り ・森林に関するクイズ	・なし	あり	あり	平日放課後 (120分)
B	・地元の森林の歴史に関する講義 ・SDGsに関する講義	・森林セラピー	あり	あり	平日授業1コマ +土曜日
C	・なし	・なし	あり	あり	平日授業2コマ (100分)
D	・森林組合による講義	・森林組合施業現場見学 ・電動アシスト付きマウンテンバイク体験 ・スウェディッシュトーチ	あり	あり	土曜日
E	(学生実行委員会あり)	・狩猟体験 ・採集体験とリース制作	あり	あり	日曜日

2.3 学習テーマの設定

1) 森林全般について理解を深める。

森林に関する知識を確認し、森林に興味を持つきっかけとして、クイズを活用するのは一手です。クイズのテーマとしては、世界の森林の状況、日本の森林の状況、森林の多面的機能、SDGs×森の新しい使い方などが想定されます。総合的な学習の時間の題材として取り上げる場合には、主なトピックの中から、生徒が自ら関心が持てるものについて調べるなどが考えられます。

表2 森林に関するテーマ(例)

テーマ	主な例
世界の森林の状況	世界の森林面積、世界の森林の区分、世界の森林の利用と保全
日本の森林の状況	日本の森林面積、天然林と人工林、里山
森林の多面的機能	物質生産、生物多様性保全、地球環境保全、文化、土砂災害防止、土壌保全、保健・レクリエーション、快適環境形成、水源涵養機能
SDGs×森の新しい使い方	木を材料の新素材、森林浴、サーキュラーエコノミー、森林サービス産業、ワーケーション、スマート林業など。

2) 地域学習の題材として地元の森林を取り上げて理解を深める。

身近に森林がある環境であっても、生徒が森林について関心を持っているとは限りません。福岡県篠栗町の例では、篠栗町教育委員会に町の森林の歴史について講義いただき、生徒たちは、樹齢数千年ともいわれる杉や、修験者たちが古くから修行をしていた地域の森について学びました。静岡県掛川市の例では、掛川市森林組合の施業の様子を高校生が見学し、地域の森林の現状や管理の様子、資源の活かし方について学びました。このように地域にあるリソースを活用すると、知識が得られるだけでなく、現実の状況を深く理解し、地域の森林に関わる人との接点ができることにより、学習の幅が広がることが期待されます。

表3 地域学習のテーマと学習方法(例)

テーマ	学習方法
地域の森林の成り立ちを学ぶ	■ 文献調査 ■ 専門家に話を聞く(教育委員会、長老など)
森林の管理の方法を学ぶ	■ 森林組合、森林整備ボランティアなどに話を聞く
森林の活かし方を学ぶ	■ 森林ガイド、森林環境教育実施機関、木工従事者、ワークショップ実施施設の関係者などに話を聞く

3) SDGsについて学ぶ

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、17のゴールと169のターゲットがあります。直接森林に関わるのは、目標15番「陸の豊かさを守ろう。」ですが、森林は多面的機能を持つため、実は他のSDGsとも深いつながりを持っています。現在、SDGsに関してさまざまな書籍や文献がありますが、森林という視点から見直した場合には、以下の2つが参考になります。

表4 森林とSDGsに関する参考文献

	コンセプトブック『私たちと森のこれから～幸せな未来に向けた5つのアクション～』 林野庁「森林SDGsプロジェクト」 https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/genjo_kadai/SDGs_shinrin.html
	みんなでつくる森の未来地図 SDGsハンドブック公益社団法人国土緑化推進機構 http://www.green.or.jp/cms/wp-content/uploads/f690fe1357d739fba8cc981bd1134b7e.pdf

2.4 森林体験

地域に森林がある場合、そこで森林体験ができると、生徒の関心をひきつけやすくなります。また地元の産業や森林の活用方法を学ぶという点においては、極めて有効な活動です。ただし、「森林×SDGsプロジェクト事業」の結果からは、森林体験後に未来予想図を描くと、見たものや感じたものに影響される傾向があり、全く新しい自由なアイデアをただ想像するという作業は難しくなることがわかりました。これは、どちらがよいということではなく、目的に応じたワークショップの構成要素の組み合わせを考える必要があることを示しています。「森林×SDGsプロジェクト事業」では、以下の森林体験を実施しました。

1) 林業について学ぶ

	
森林組合の施業現場見学	伐採方法の説明

2) 木材や間伐材のさまざまな使い方を学ぶ

	
スウェディッシュトーチ	電動まき割り体験

3) 森での楽しみ方・遊び方を学ぶ

	
森からツタなどを採集してリース制作	電動アシスト付きマウンテンバイク体験

4) 森で癒される(森林セラピー)

	
森で寝転んで空を眺める	森を感じてみる

2.5 未来予想図作成

バック・キャスト(現状や課題から未来を考えるのではなく、「ありたい姿/あるべき姿」から逆算で“いま”を考える)によって、目の前の課題のみにとらわれることなく、生徒が自由な発想で森の新しい使い方について、絵や言葉を使って模造紙に表現します。「森林×SDGsプロジェクト事業」では、以下をワークショップの基本ルールとしていました。

- 正解はありません。
- 夢物語でも OK。実現できる方法もみんなで考えたら、なお Good。
- ほかの人のアイデアは否定しない。あたたかい突っ込みで、オモシロがろう。

未来予想図作成にかかる最適人数は、グループあたり 5 名程度です。以下の 3 つのワークをとおして未来予想図を描きます。それぞれのワークで 15 分から 20 分程度の時間を取り、グループ内でディスカッションしながら作業を進めます。「①森の印象」は、生徒に五感を使って森について考えてもらうために有効なワークです。特に、ワークに先立って森林体験を行う場合や、生徒が日常的に森林に触れる機会がある場合に効果的です。

森林体験がない場合は、②から始めて構いませんし、①のテーマを他のものと差し替えても構いません

ん。ただし、未来の森の姿を想像してから(②)、未来につながるアクション(③)を考える順番は保持する必要があります。

表 5 未来予想図作成のためのワーク

ワーク	内容
①森の印象	■ 森歩きを通して感じた 「森の印象や感想」を共有しよう
②未来の森を想像する	■ 森の魅力や印象は 2050 年にどうなっていてほしい？ ■ 森の新たな活かし方はあるかな？
③未来予想図実現へのアクション	■ 未来予想図の実現に向け、自分たちができるアクションを考えよう ■ 他の人に協力してもらいたいことはあるかな？

また、成果物は必ずしも模造紙である必要はなく、立体でも構いません。長野県の根羽村の例では、生徒たちが森林体験の際に採集した植物を使って、大きなリースを作り上げました。重要な点は、以下のとおりです。

- 自由な発想に基づいて表現する創作物なので、成果物を内容の良し悪しで評価しない、無理にきれいにまとめようとしない。
- 生徒へワークを促す際に、①アイデアはなんでもよい、②他の人の意見を否定しない、③絵が苦手な人は言葉でもよいなどの適切なファシリテーションが不可欠である。



また、生徒のアイデアを引き出すために、事前課題や森林体験中に補助的にワークシートを使うのも効果的です。巻末に 3 つのワークシートの事例を添付しました。

- 自分の森林体験を他の人に共有するためのワークシート
- 森林体験をしながらアイデアをまとめるためのワークシート
- 森林体験の振り返りとアイデアをまとめるためのワークシート

2.6 動画メッセージ撮影

「森林×SDGsプロジェクト事業」では、次の学校へのフォレストバトン・パスとして、1分間でメッセージをまとめ、その様子を動画に撮影しました。動画は農林水産省のYouTubeページで公開されています。この動画撮影で採用した「グループとして伝えたいことを1分間にまとめる」手法は、生徒からも好評を得ました。自分の考えを端的に第三者に伝えるよい練習になります。また、生徒の視点で、自分たちが撮りたいものを撮影し、それを見せ合うのも一つの案です。また、未来予想図を作成した生徒たちが次の学年にメッセージを残せば、学校の中に代々の生徒の想いが受け継がれていくことにもなります。

<1分のまとめ方>

例1 キャッチフレーズ/スローガン

例2 新聞記事タイトル

例3 五、七、五

例4 ポエム

例5 寸劇、紙芝居

2.7 モデルプログラム

構成要素の組み合わせによって所要時間は変わりますが、もっともシンプルな形である未来予想図作成とメッセージ動画の撮影に、最低必要なモデルプログラム（授業2コマ分）は、以下のとおりです。20名で4グループの場合です。グループの数が増えれば、所要時間も増えます。もし可能であれば、未来予想図の作成のみに90分程度確保できると、なおよいです。

第1部 未来予想図作成（50分）	時間
2050年の未来予想図ワークショップの概要説明	5分
ワーク①森の印象	15分
ワーク②未来の森を想像する	15分
ワーク③未来予想図実現へのアクション	15分

第2部 アイデアの共有（50分）	時間
ワーク④フォレストバトン～他の学生に伝えたいメッセージをまとめる もしくはアイデア発表準備	15分
フォレストバトンメッセージ撮影（各グループ1分、予行練習1分含む） もしくはアイデア発表（各グループ3分）	20分
質疑応答と意見交換	15分

3. 未来予想図ワークショップ実施にかかる留意点

3.1 必要物品

未来予想図の作成には、以下の物品が必要です。

分類	物品
紙類	☐ 模造紙 ☐ 画用紙 ☐ カラーの付箋（大・中・小）
筆記用具	☐ マーカー（黒・青・赤・その他カラー） ☐ 色鉛筆 ☐ クレヨン
仕上げ用の道具	☐ はさみ ☐ のり ☐ マスキングテープ
動画の撮影	☐ ビデオカメラもしくはスマートフォン ☐ 動画編集用ソフト

3.2 協力機関や保護者との調整

地域学習や森林体験の実施において、地元の教育委員会、森林組合、PTA などから協力が得られる場合、スケジュールのみならず、場合によっては経費負担（講師謝金、車両傭上、交通費、野外活動保険加入、昼食代、会場借料）などについても、関係者間の調整が発生します。

3.3 広報・对外発信

地域の新聞社、地方自治体の広報誌やウェブサイトでの掲載、PTA 会報などに取り上げてもらうよう働きかけると生徒の取り組みを学校の外へも広げることができます。

3.4 学生の自主的な活動を促す工夫

長野県根羽村の事例のように学生実行委員会を組織し、未来予想図ワークショップを企画の段階から学生実行委員会主体で進めると、さらに生徒の自主性を促すことができます。

3.5 ファシリテーション上の注意

未来予想図ワークショップにおける「大人の見守る姿勢」は極めて重要です。未来予想図の作成過程で口をはさみたくなくても、生徒自身に任せることが肝要です。他方、森林体験や事前学習などで、生徒が大人の話を聞くのは有益です。場面によって、効果的に大人が関与することが重要です。

4.ワークショップで使用するワークシート例

a) 自分の森林体験を他の人に共有するためのワークシート

名前：

Q.1-1 私の好きな森・気になる森（写真または絵）

なんかいいなと思う森、ちょっと気になる森、森のめぐみとを感じるものなど、自分が興味を持ち、ほかの人に共有したいと思う森の写真などを以下のスペースに貼ってください。

例）間伐作業中の風景、キノコ、虫、動物、木が使われたベンチ、涼しい木陰 など

Q.1-2 上記の写真や絵のタイトル

Q.1-3 この写真・絵を選んだ理由を教えてください。

どんなところがよいと思いましたか？なぜ気になるのでしょうか？どんな時に森のめぐみだと感じましたか？

Q.2 自分の経験の振り返り

自分の体験に基づき、森に対する印象や感想を3つ挙げてください。

その際、①見たこと、②聞いたこと（聞こえたこと）、③匂い、④触ったもの、⑤食べたもの（もしあれば）を思い出してみてください。（難しく考える必要はありません。思ったこと、感じたことをそのまま書いてください。）

（例）森林で作業をした後は、疲れるけど気分がすっきりする。

森の中でお弁当を食べていたとき、虫に刺されてかゆかった。

（1）

（2）

（3）

b) 森林体験をしながらアイデアをまとめるためのワークシート

森を歩きながら考えてみよう

歩きながら感じたことをメモしましょう。

Q1：森を歩く前と後で、森の印象は変わりましたか？

効果音（ざわざわ、しーん、どしり）など、一言で表してみよう。

（森に入る前）

（森に入った後）

⇒

Q2：あなたが感じる「森のめぐみ」を探してみよう。

Q3：篠栗の森を作った人は、どんな思いで木を植えただろう？

Q4：30年後、50年後、100年後の森を想像しながら歩こう。

どんな変化があるかな？

Q5：森は、SDGsの達成にどうつながるだろう？



Q6：今日参加していない友達や、家族に伝えたい森の魅力は？

c) 森林体験の振り返りとアイデアをまとめるためのワークシート

森林体験を振り返って…

絵でも、言葉でも、自由に表現しよう

Q1：あなたが感じた「森のめぐみ」は？
 “なんかないな”と感じる森、
 “ちよっと気になる”森
 見たこと、聞いたこと、匂い、触ったもの、
 食べたもの、振り返ってみよう。

Q2. どんなところがいいと思った？
 なぜ気になるのかな？

Q3. 森や周りの環境は、30年後どうなっているだろう？

Q4：30年後どんな森になるとよいだろう？

Q5. 30年後の自分を想像

30年後、自分は____歳です。

家族は、____です。

____に住んでいます。

仕事は、____。

森との関わりは

____。

